

平成31年度岡山市市民共同推進ニーズ調査事業

『適応指導教室を通いやすく・通いたくなるためのニーズ調査事業』

調査報告書

【実施主体】 特定非営利活動法人 ステップ

【協働課】 教育委員会事務局 学校教育部 指導課 教育支援室

はじめに

「子どもが適応指導教室に通うのは不安だと言っています。」

そんな声を聞くようになってどれくらい経つでしょうか。岡山市だけではなく、他の市町村の不登校の生徒の保護者の方から同様の声を聞きます。

今、不登校支援団体ステップの理事長をしている私が不登校だった小学生の時、適応指導教室に1年半通いました。勉強したり運動したりと、学校とそんなに変わらない活動を行っていましたが、楽しい場所でした。家に2年間ひきこもっていた私は、適応指導教室に通い、初めて人間関係の楽しさを知りました。その適応指導教室が設立されて2年目の年でした。

大学卒業後に不登校支援を始めて、適応指導教室でのしんどさを耳にするようになりました。昔とは何が違うのだろう、そう考えるようになりました。

不登校から社会的な自立に向かうためには、適応指導教室の役割は大きいと思います。そんな適応指導教室を「どうしたらより通いやすく、通いたくなる場所にできるだろうか。」という事がこの調査のテーマです。

一人でも多くの不登校の小中学生が社会的自立の方向に進むことを願っています。

令和2年2月13日

特定非営利活動法人ステップ 理事長 原 昌広

目次

- ・全体概要 作成者 坂元 原
- ・予備調査報告書 作成者 坂元
- ・本調査報告書 作成者 坂元
- ・全体考察 作成者 原
- ・コメント 作成者(?) 東條先生
- ・謝辞

問題・目的

岡山市の適応指導教室について

岡山市にはあおぞら操山、トラングルー宮、ラポート牧山、すまいる瀬戸、南部適応指導教室の5か所が設置されている。平成29年度の5教室における合計入室者は76名であった。しかし、岡山市内の不登校である小中学生は794人(小学校266人、中学校528人)であり、その中で出席日数が0～10日の児童生徒は108人であり依然として多い。

そもそもなぜ適応指導教室に通室することができない児童生徒がいるのだろうか。児童生徒自身も保護者も通いたい、通わせたいと思っているが通えていない場合がある。適応指導教室の役割は、不登校段階における中期の後半(安定期)以降に発揮されやすい。児童生徒自身が学校復帰や進学を意図している時期にであるため、“復学と進学を目指し、社会的な自立を目指す”という適応指導教室の目的と重なるからである。

そこで不登校となっている児童生徒を以下の2つのグループに分類し、どうすれば通室しやすくなるかを検討した。

仮説

(1) 不登校の中期後半に達している児童生徒の場合

(学校復帰や進学を希望し始めている)

対応案①:適応指導教室への通室を希望しているが、通室できていない理由に対応する。

対応案②:適応指導教室に通室したくない理由に対応する。

(2) 中期後半まで達していない児童生徒の場合

(学校復帰や進学を希望していない)

対応案①:個別相談や、保護者相談によって中期後半になれば適応指導教室に通室することが可能であるが、現在の状態では通室への心理的な負担が大きいため、心理面をケアしていく。

対応案②:不登校初期や、中期前半でも適応指導教室に通室することができる機能を作る。

目的

対応案を実現していくために、本調査では不登校児童生徒のニーズや、実情について調査を行い、改善案を検討・提案することで、不登校の生徒が楽しく楽に「適応指導教室に通いやすく、通いたくなる」ように力添えを目指した。

手法

この調査は、本調査を行う前に予備調査を行う手法を選択した。予備調査により、適応指導教室の現状に関しての傾向を判明させる。そしてより詳しく調べるために予備調査の傾向を元に、本調査の設問を作成した。本調査実施前に予備調査を行うことで、より精度の高い調査書を作成した。

また、調査手法や方向性については、岡山大学大学院社会文化科学研究科の東條光彦教授にご助言いただいた。各段階で助言をいただくことで、実用性のある調査を目指した。

調査対象

調査は、予備調査、本調査ともに、調査現在で高校生の方とその保護者を対象として行った。これは不登校状態にある小中学生を対象とした方がより実状を現した調査結果が得られるとも考えた。しかし調査を行う際に調査対象の方々にストレスがかかることが予想されるものの、それを配慮することができないことが予想された。また、調査のための人数に質問紙を配布することも困難であることが予想された。この 2 点から、調査対象は高校生とその保護者とし、小中学生時代の不登校経験がある生徒が多いことが推察できる通信制高校やそのサポート校に生徒への質問紙配布を依頼した。

不登校における段階について

不登校の段階分けについては、各時代のそれぞれの研究によって様々な解釈があるが、元高校教員で、教育相談機関の経験がある、千葉大学の小澤教授の著書（参考文献 1）からその概要を紹介したい。小澤氏（2006）によれば、不登校の回復に向けた経過の段階は、1.前兆期、2.初期、3.中期、4.後期、5.社会復帰の 5 段階がある。この内、2.初期、3.中期、4.後期の 3 つの段階が不登校状態である。

まずは、各段階について簡潔に説明する。

2.初期は、登校できなくなったばかりの時期で、情緒的不安定さや頭痛や腹痛等の身体症状や登校できないことで混乱が生じることもある時期である。そのため、初期段階の援助の目的は、安定させる、ということになる。安定させるために、その子の持っている固有の状態を把握し、休養を取らせることで、これ以上悪くならない状態を作ることを目標に援助を行う。

3.中期は、日常の生活リズムが安定するが、状態に変化がないので膠着しているように見える時期である。本人が趣味や遊びを通じてエネルギーが溜まっていく時期でもある。したがって、中期段階の援助の目的は、エネルギーを溜めさせる事となる。他人との関わりの中での体験を通じてエネルギーを溜めさせ、成長を目指すことが大事なのである。

4.後期は、将来の自立に向けた活動ができるようになり、回復してきているように見える時期である。学習を始める、学校関係者に会う等の行動をするが、本人の中では試行錯誤をしている時期でもある。この段階では、本人の活動を援助することが目的になる。生徒自身の現実的な考えや行動に具体的な援助をすることで、自立の動きが実現することを目標としている。

上記の内、中期の段階が生徒の状態に配慮してくれる先生や気の置けない友人に会うことができ

る時期である。まだ、初期段階に引き続き、説教したり説得したりする先生には会うことができない時期となっている。そのため、配慮があるかどうか分からない環境や、気をつかう必要のある友人とは関わることができず、学校復帰したいと考えても、困ってしまうことがある。そのため、いきなり学校に復帰するのは難しいため、適応指導教室（教育センター）に通うことで学校復帰や社会復帰を目指す生徒がいる。ただ、それは中期の中でもエネルギーが溜まった後であり、中期の後半であると考えられる。

予備調査

目的

本調査のための質問項目を作成するために予備調査を実施した。予備調査では、不登校経験者である生徒・学生とその保護者に対してインタビュー調査を行った。

方法

NPO 法人ステップの職員 3 名が個別にインタビュー調査を行った。インタビュー内容は録音機器にて録音し逐語録を作成した。逐語録より質問項目の作成を行い、項目を kj 法にて分類し整理した。

調査期間:2019年6月22日~2019年7月27日

調査対象:岡山市在住で NPO 法人ステップ、NPO 法人あかねを“利用している”あるいは“利用していた”計 14 名。小学校~中学校の期間における不登校経験のある者:9 名(15~18 歳)、不登校経験を持つ者の保護者:5 名(42~56 歳)である。調査対象には適応指導教室の利用経験がない者(生徒・学生:2 名、保護者:1 名、計 3 名)も含まれる。これは利用経験のない者からの適応指導教室に対する見解を得るためである。

実施場所:NPO 法人ステップの面談室および NPO 法人あかねの面談室を利用した。

所要時間:15~30 分程度の半構造化面接でのインタビューを行った。

質問内容:①「小学校~中学校での不登校の期間」

②「受けていた支援・通っていた場所」

③「どのような支援が欲しかったか？」

④「不登校期間での外出」

⑤「適応指導教室への通室の有無」

⑥「適応指導教室への通室の頻度」

⑦「適応指導教室への通室の方法」

⑧「適応指導教室に通いやすかった点」

⑨「適応指導教室に通いにくかった点」

⑩「適応指導教室での活動・過ごし方」

⑪「適応指導教室への期待」

⑫「適応指導教室に必要と思うこと」

※調査対象者は、現在の状態や状況を考慮したうえで調査協力お願いした。調査協力を行う各 NPO 法人の代表が調査対象者を検討し決めた。

※【kj法】文化人類学者の川喜田二郎により考案されたデータ分類法。

結果・考察

1. 調査対象の基本情報

小学生～中学生時代に不登校経験があり、岡山市在住で、NPO 法人ステップ、NPO 法人あかねを利用している(利用していた)生徒・学生あるいは、不登校経験者の保護者の計 14 名。

小学校～中学校の期間における不登校経験のある者:9 名(15～18 歳)、不登校経験者の保護者:5 名(42～56 歳)であった。不登校経験者の中には、適応指導教室の利用経験がない者(生徒・学生:2 名、保護者:1 名、計 3 名)も含まれた。

生徒・学生

ID	調査日	属性	性別	年齢	通室
1	2019/6/26	生徒・学生	男性	18	あり
2	2019/7/11	生徒・学生	男性	17	あり
3	2019/7/11	生徒・学生	男性	17	あり
4	2019/7/17	生徒・学生	男性	16	あり
5	2019/7/13	生徒・学生	男性	18	あり
6	2019/7/23	生徒・学生	男性	16	あり
7	2019/7/27	生徒・学生	男性	15	あり
8	2019/7/13	生徒・学生	男性	18	なし
9	2019/6/29	生徒・学生	女性	17	なし

保護者

ID	調査日	属性	性別	年齢	通室
10	2019/6/22	保護者(母親)	女性	56	あり
11	2019/7/11	保護者(母親)	女性	47	あり
12	2019/7/13	保護者(母親)	女性	44	あり
13	2019/7/16	保護者(母親)	女性	45	あり
14	2019/7/11	保護者(母親)	女性	42	なし

2. 調査対象者の不登校期間

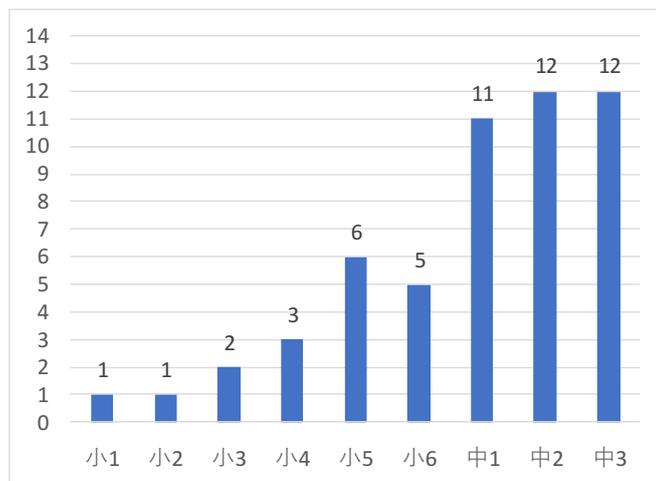
調査対象者の不登校期間について、学年次ごとに累積人数を求めた。

小学1年が1名、小学2年が1名、小学3年が2名、小学4生が3名、小学5生が6名、小学6生が5名、中学1年生が11名、中学2生が12名、中学3年生が12名であった。

不登校期間の学年ごとの累積人数

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
累積人数	1	1	2	3	6	5	11	12	12

不登校期間の学年ごとの累積人数



3.不登校時の外出先／受けていた(受けている)支援

不登校の当時のことを思い出してもらうことを目的にたずねたインタビュー項目である。どのような場所であれば外出できたのか、どのような支援を受けて過ごしていたのかを聞くことができた。

外出について、自分の趣味に関することであれば自発的に外出や活動への参加を行っている。保護者(母親)とともに行動する者が多いようである。心理的・精神的な症状(対人恐怖、等)があったと語る場合は、自家用車でのドライブを回答する者が多かった。

受けていた支援について、分類してみると、児童／生徒は、カウンセリングを受けられる場所、居場所となるもの、学習の支援を受けているようである。保護者は子供の不登校に対しての対応や支援先の紹介を求めており、受けた支援としては相談が可能な人物や施設を回答する者が多かった。

不登校であった時期の主な外出先

- ・コンビニ
- ・買い物
- ・買い物や遊び
- ・ゲームを買いに
- ・図書館、本屋
- ・スポーツ少年団(卓球)、ロボットプログラミングのクラブ
- ・月に1回、親とランチ
- ・1人で東京に電車で行き、ネットのイベントやオフ会に参加
- ・ドライブ
- ・夜のドライブ
- ・レンタルビデオ店の駐車場
- ・親の病院への通院についていく
- ・近所の祖母の家

受けていた(受けている)支援

児童／生徒	保護者
<ul style="list-style-type: none"> ・ 適応指導教室 ・ NPO法人ステップ ・ NPO法人あかね ・ 岡山市「夢探しの旅」 ・ 学童 ・ 学習塾 ・ 家庭教師 ・ 大学教員および大学生 ・ 知人を集めての会 ・ 学校の登校支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適応指導教室 ・ スクールカウンセラー ・ 親の会 ・ 病院 ・ 岡山市役所勤務の元校長先生

4.必要としていた(必要としている)支援

受けていた支援だけで十分満足していたと答える者や、特に思いつかないとの回答もあり、回答数が少なかったインタビュー項目である。そのため児童／生徒の回答と保護者の回答をまとめたうえで分類している。必要としていた支援は「人的資源」「学習支援」「適切なタイミングでの支援」「居場所」「支援施設／設備」「訪問支援」「保護者への支援」の7つに分類された。

「人的資源」

- ・ 学校へ通うのとは違う道を考えてくれる人
- ・ 肯定して欲しかった
- ・ カウンセラーとの相談

「学習支援」

- ・ 勉強する場所
- ・ 勉強の支援
- ・ 軽く楽しく勉強できる場所
- ・ 勉強がやばいと思っていたが、何をすればいいのか分からなかった

「適切なタイミングでの支援」

- ・ 学校へ登校する気になったタイミングでの支援

「居場所」

- ・ 時間をつぶす方法
- ・ 家以外の行く場所

「支援施設／設備」

- ・ 支援を受けられる場所は入りにくい施設(会議室みたいな)が多く、子供が入りやすい施設
- ・ 支援を受けられる場所が自宅の近くでない
- ・ 学校ではないが、出席の扱いになる場所

「訪問支援」

- ・引きこもってしまったので訪問型の支援
- ・精神医療系の訪問支援
- ・訪問による学校とのつながり
- ・学校のお友達の訪問

「保護者への支援」

- ・保護者への早期な専門的支援
- ・ネットではなく、人の紹介による支援のつながり方
- ・(不登校支援を必要とする) 母親同士が結びつくような支援

5. 適応指導教室の知り方

適応指導教室をどのように知ったかをたずねた。児童／生徒は、保護者(母親)から聞いたとの回答が多かった。中には自分でインターネット検索をして見つけた者もあり、自発的に自分が通える場所を探している者もいる。保護者は、教員やスクールカウンセラーといった、学校からの紹介で知ることや、利用経験のある他の保護者から聞いて知った者もいた。

児童／生徒	保護者
<ul style="list-style-type: none">・親から・母親から・学校からのチラシ・親と一緒にインターネットで	<ul style="list-style-type: none">・不登校の初期に担任教師から・スクールカウンセラーから・上の学年の不登校児の母親から・知り合いの親から・学童から・学校からのパンフレット

6. 適応指導教室に期待していたこと

『必要といていた支援は?』、『適応指導教室に必要なことは?』というインタビュー項目と回答が一部同様のものがあつた。利用開始前や利用中に期待していた内容と実際の適応指導教室での活動が一致せず、通室をやめたと回答した者もあり、適応指導教室の運営は、どのような期待を持たせるか、どのように期待に答えていくかが重要と思われる。

児童／生徒

- ・したいことをする場所というよりは学校の代わりとして。取りあえずつなぎで行けばいいと思っていた。
- ・勉強がしたいけれど、遅れている分があつたため勉強についていけない。だから勉強がした

から行けた。

- ・勉強しようと思って行っていなかったから、全体的に楽しかった。

保護者

- ・不登校初期の支援について何も分からない時に相談できた
- ・学校の代わりとして通えるところ
- ・通わせやすかった(自宅から近い、施設が綺麗、先生の感じがよい)
- ・本人が楽しいと言っていた時期もあるので通わせてよかったようにも思う。
- ・少人数であったこと、のんびりとした雰囲気でも過ごせたことが本人よかったと思う。

8. 適応指導教室に通いにくかった点

児童／生徒の回答では、「職員の対応」「面接／活動」「通室環境」「個人の状態」の4つに、保護者では、「職員の対応」「通室環境」「通室のイメージ」の3つに分類された。全体としては、職員の対応についての不満や、必要していたことと違う活動についての不満、自宅からの距離や利用時間の問題、適応指導教室に対してのネガティブな印象について回答されている。

児童／生徒

「職員の対応」

- ・(先生がいて、話すのがあって、心情を聞かれたり)単純に楽しくなかった。
- ・先生たちの雰囲気はよかったが、学校にとって空気が
- ・先生との相性。
- ・ただ行ってボーっとしているだけでいいと聞いて行った。「勉強嫌だ」って言ったのに、すごく勉強を教えてくるから帰った。
- ・雰囲気はよかった。でも学校の復帰に重点を置いている感じはした。そういう空気を感じた。

「面接／活動」

- ・居心地が悪い。カウンセリングで先生と話している時もすごく緊張して
- ・大人数はつらかった。小人数がよかった。
- ・したいことができない
- ・面倒を見てはもらえただけ合わなかった。
- ・勉強している部屋は、場所が完全に勉強って感じで勉強したいと思えなかった。
- ・勉強がしたかったが勉強の道筋が見えなかった。楽しい所というわけではなかったし、勉強がしたかった。
- ・楽に勉強出来たらなって。運動と勉強が半々ぐらいだったらよかったかもなって。
- ・慣れるまではもう少し遊ぶというか、カジュアルに。慣れれば勉強しても。その場になれることが。

「通室環境」

- ・行くのに時間がかかる

「個人の状態」

- ・外に出るのが怖くて、行く意味が感じられなかった。
- ・行けなくなった。気持ちが落ちてきて、メンタル面の問題

保護者

「職員の対応」

- ・初回の時に、駐車場まで来ていた子供に会いに来てくれてもよかったのでは
- ・学校に適応したいわけではないと。黙って一人で静かに勉強したかったと言っていた。
- ・作りたくもないコースターを作らされるのは何だったのか
- ・(適応指導教室に)何となく馴染めていけたらいいかなって思っていたので、(学校への)適応の支援がいらなかった。
- ・カウンセラーの先生は、娘の反応をびくびくしながら見ていたので不信感があった。娘の反応に対して、怖いって娘に言ったので。この先生のほうがカウンセラー必要なんだろうなって。態度見たときに任せられないなって思ってしまった。
- ・適応指導教室で娘に対して適応させてほしいとは思っていなかったなので、そこですれ違ってしまった。
- ・職員の質。不登校に対する理解がない。
- ・最初の相談からつまずいた。相談員と合わなかった。見学で行ったら(始めに)個室に入れられて問い詰められた。見学もせずに帰った。私も相談員が苦手だった。目力が強くてぐいぐい来るタイプ。もう少し本人のペースに合わせて欲しかった。

「通室環境」

- ・通わせやすいと思ったことがない(利用時間、アクセス)
- ・10時から14時までだし、利用時間が働く親のことを考えていない。
- ・環境。福祉のところと同じで、暗かったし、物々しかった。
- ・子供だけではいけない場所にある
- ・歩いていける距離でもなかったなので、学校に近い形での通い方ができればよかった。
- ・職員の入れ替わりが激しい。年度替わりにはごっそり変わるし、最近見ないなと思ったらなくなっていたり

「通室のイメージ」

- ・発達障害の子が行くイメージ。そこに行くことが本人を傷つけるのではないかと思った。
- ・登校していないことが悪いことではないという認識だと、そこ(適応指導教室)は(通うのは)違うと思った。

9. 適応指導教室に必要なと思うこと

児童／生徒では、「職員の資質」「備品／設備」「活動」「通室環境」「学習」「居場所」「名称」の7つに分類された。

保護者では、「職員の資質」「備品／設備」「活動」「通室環境」「適応指導教室の認知」「オンラインでの支援」「居場所」の7つに分類された。

児童／生徒と保護者とは、おおむね似通ったニーズがあるようだが、一部違った分類が出てきている。児童／生徒では勉強についての回答、保護者では適応指導教室の機能についての理解の促進や周知、オンラインでの支援といった適応指導教室の中でだけの支援ではなく、在宅している個人へ向けての支援を求める者や回答があった。

児童／生徒

「職員の資質」

- ・もうちょっと話しやすい、趣味に合わせてほしい。趣味が合っていると話しやすいし、行く活力にもなる。
- ・話し相手が欲しかった。楽に話せる相手。
- ・個人をしっかりみてほしい。見てはくれていたが、特性とか考えてくれていなかった。
- ・学校に戻そうっていう空気感が嫌だった。
- ・不登校の経験をしたことがない人に、本当につらさが分かるように思えない。普通に小中高大といって生きてきた人に、学校に行けなくてつらいって言っても共感してもらえない。
- ・もっと個別に話を聞いてもらいたかった。
- ・職員について、抽象的になるけど、信頼できる人。弱いところを見せるわけだし。相手のことを知っておきたい。じゃないと弱いところも見せられないし。ちゃんとした自己紹介が欲しい。
- ・インターネットとか。玩具とかでの遊びよりも。先生たちもそれに興味を持ってもらえたら、話しやすかったりする

「備品／設備」

- ・ゲーム。ゲームがあれば行きやすかった。
- ・ボードゲームを増やしてほしい。カードゲームとか。カードを使うものとか。
- ・ゲームとか漫画とか。FPSとか。

「活動」

- ・ゲームとかで一緒に遊ぶ
- ・何か物を一緒に作る。
- ・行きやすくなるきっかけになるのは、遊びから。だから、もっと遊びを最初に目的にしてもいいのではないかな。
- ・静かに読書できる時間があれば。読書だと人と話さなくてもそこにいて楽しめる。

「通室環境」

- ・もっと行きやすい場所にあつたら。遠かったり、場所がわからなかったり、電車が通ってない

から、ひとりで行けない。親が仕事だといけない。

・家からはちょっと離れているぐらいがいいが、離れすぎても嫌だから、自転車で行ける範囲ぐらいがいい。

・通うのに一人で電車に乗っていくっていうのも経験になると思う。

「学習」

・一番初めは、教育委員会に認められたボードゲームみたいな、これで勉強になるんだって、勉強って悪くないなっていう感じにして、段々とレベルを上げていく感じで、勉強できるといい。

・勉強自体は好きだったが、知っていることは好きだったけど、学校で教えてもらうっていう形が嫌だった。先生が嫌とかではなく、学校っていうシステムが嫌だった。適応指導教室みたいなところで、もっと融通のきく勉強ができればよかった

・あの時の自分には、そこで勉強させてもいかなかったと思う。勉強がそこでできてしまうなら学校には行かなくなりそう

「居場所」

・居場所とか。

・学校に行くのが第一の目標としてできていて、そこに行けている人は行かなくていいみたいな、適応指導教室に行くって選択肢がないのは。

・認知されていないっていうのがあるのかもしれないけど、子供側からすると。

・不登校の子が学校に戻るために行く場所っていうのではなく、学校がちょっとしんどいから一週間適応指導教室に行って、学校に戻ってみたいな自由に使える居場所が欲しい。

「名称」

・適応指導教室と思って行くと行きにくいから、それを聞いていこうと思う人は少なくなると思う。適応指導教室っていう名称が嫌だなって。

・名称について、通っていた別室登校の部屋の名前が、つどいの部屋だったけど、通っている人からすると、ひらがなにされて優しい感じにされるとプライドが傷つくから、名称は漢字がいい。

保護者

「職員の資質」

・不登校とか施設の機能についてちゃんと知っていなかったら意味がない。

・受容してくれる資質。

・不登校の問題に対する理解。

・子供の自己決定を尊重してくれること。

・教員ではなく専門知識がある人がいるところがいい。

・カウンセリング力。子供の症状がわかるっていうのは、公的な機関には期待できないなって結論にいたった。

「適応指導教室の認知」

- ・通ったことがないので何をしているのかは知らない
- ・中学生が多いと聞いていて、何をしているとか全然知らないし、学校に近い、学校につながるような形である、敷居が低くて、あるみたいなの。
- ・そっちに行ってしまったら学校には行けなくなるのではないかと思ったり、でも学校にいけなければならそっちにでも行けたらいいのにと。
- ・正直、行くまでどんな支援が受けられるのかわからず、相談できるのかな、学校以外に行く場所があるんだって。具体的に内容を知らなかった。

「活動」

- ・ゲームを教えてくれる、パソコンの授業みたいなのがあったらいい。
- ・本人もゲームを持って行っていいなら行くと言う
- ・適応指導教室の名称も最近はやい換えてはいるようだが違うなど。
- ・教科を教えるだけでなく、本人が学びたいことを学べる場であってほしい。
- ・学校に行けないのに、行くのはおかしい。訪問して欲しかった。
- ・学校に適応させるために学校のようなところに通わせるのはおかしい。もっと心を見てくれるところがいい。
- ・病院に行く手前としての場所としてほしい。
- ・行政には限界があるのでは。民間で実績のあるところに委託はできないのか。

「備品／設備」

- ・開けた場所にありで遠巻きにでも見学できること。
- ・子供が興味を持つものがあるところ。漫画やゲームのような。まずは足を運ぶきっかけになるようなものが欲しい。

「通室環境」

- ・公共の乗り物で電車とバスで、子供の足で行けること。最寄りの駅からも遠いし、自転車で行くにしても遠い。通えないなら意味がないじゃないのか。
- ・バス停から近いと紹介されたが、当時、小学生がいなかったからと言われ利用できなかった。中学生が主体だったようで、行っても同年代の子がいなかったというのは、行きにくい。

「居場所」

- ・家でも学校でもない場所であること。居場所としてほしい。
- ・学校・家庭以外の居場所。受け入れてくれる環境が欲しかった。
- ・受け止めてくれる他者との出会い。そこを基盤に本人がやりたいことを考えてくれる機能、役割があればよかった。
- ・行き方を選べたり時間を選べたりできるといい。単純に自習ができる場所が欲しかった。意外といけるところもない。図書館も自習ができないので。単純に場所が欲しかった。安全で。

「オンラインでの支援」

- ・オンラインでつながれないのか？
- ・オンラインで関係が作れたり、顔を知れたり、そういうので敷居が低くなるのでは

総合考察

予備調査の結果から、適応指導教室を利用しようとする者のニーズに 3 つの違いがあることが考えられた。3 つの違いは、『1. カウンセリングを必要とする者』、『2. 学習環境を必要としているもの』、『3. 居場所としての利用を必要とする者』である。この違いによって、同じ対応でも賛否が分かれてしまっているのではないだろうか。個人によりニーズは 1 つだけではなく、2つ、3つと重なってあるだろうが、最も優先とするニーズもあれば、必要としていないニーズもあると考えられる。ニーズにうまく対応して行くことがこれから必要となるだろう。

1. カウンセリングを必要とする者

悩みの相談や、自己肯定、受容してもらうことといった、一対一でのカウンセリングや小集団での対応を求めていると考えられる。

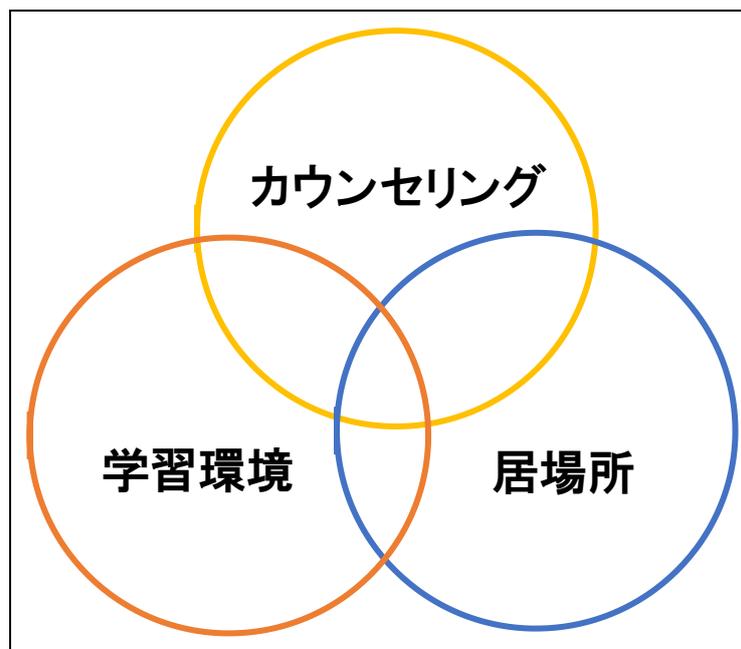
2. 学習環境を必要としている者

学校での授業に追いつくことや、進学や進路について勉強ができる環境や勉強方法の指導を求めていると考えられる。

3. 居場所としての利用を必要とする者

学校の代わりとなる場所として、遊びの場として、家と学校以外の行き場として利用を求めていると考えられる。

必要とするニーズモデル



本調査

目的

予備調査で得られた項目をもとにアンケートを作成し、本調査を行った。現役の小学生・中学生を対象とすることは避け、不登校経験者が多いと考えられる通信制高校に調査協力を依頼した。

方法

調査手順：岡山市内にある通信制高校 4 校に調査協力を依頼し、通信制高校内での授業時間に、教員により質問紙と適応指導教室についての概要資料を配布してもらった。質問紙の回答者には、教示として「質問紙の回答前に適応指導教室についての概要資料に目を通してから回答するように」と説明した。

調査日時：2019年11月1日～2019年12月31日

調査1

調査対象：岡山市内の通信制高校に通う生徒・学生。質問紙の回収数は134部でそのうち回答に不備の合ったものや偏った回答が見られたものを除き、有効回答数は118部であった。

回収方法：通信制高校の授業内にて教員が回収、または質問紙と合わせて配布した質問紙送付用封筒による郵送をお願いし回収した。

調査2

調査対象：岡山市内の通信制高校に子供を通わせている保護者。質問紙の回収数は26部でそのうち回答に不備の合ったものや偏った回答が見られたものを除き、有効回答数は24部であった。

回収方法：質問紙と合わせて配布した質問紙送付用封筒による郵送をお願いし回収した。

調査1

結果・考察

1.調査対象の基本情報

回答者の年齢は15歳が18名、16歳が50名、17歳が28名、18歳が19名、無回答が2名であり、平均年齢は16.28歳であった。

性別は、男性名68、女性名48、無回答が1名であった。

小学生時の居住地は、岡山市内に住んでいた者が71名、岡山市外に住んでいた者が43名、無回答者が3名であった。中学生時の居住地は、岡山市内に住んでいた者が75名、岡山市外に住んでいた者が40名、無回答者が2名であった。

小・中学生時の不登校経験は、経験のある者が63名、経験のない者が54名であった。

適応指導教室の利用経験は、不登校経験があると答えた63名のうち、岡山市の適応指導教室利用経験者が19名、岡山市外の適応指導教室利用経験者が8名、利用経験のない者が36名であった。

回答者の年齢

年齢	人数
15	18
16	50
17	28
18	19
無回答	2
合計	117

回答者の性別

性別	人数
男性	68
女性	48
無回答	1
合計	117

小・中学生時の居住地

	小学校	中学校
岡山市内	71	75
岡山市外	43	40
無回答	3	2
合計	117	117

小・中学生時の不登校経験

	人数
不登校経験者	63
未経験者	54
無回答	0
合計	117

適応指導教室の利用経験

適室の利用	人数
岡山市の利用	19
岡山市外の利用	8
利用なし	36
無回答	0
合計	63

2.調査対象者の不登校期間

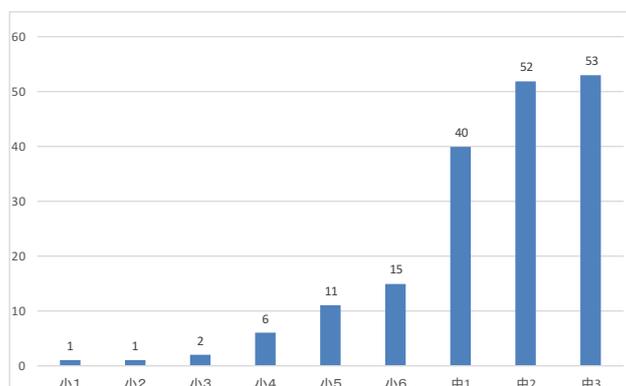
調査対象者の不登校期間について、学年次ごとに累積人数を求めた。小学生・中学生時に不登校経験のあった者64名のうち、不登校経験学年について61名の回答があった(無回答3名)。

小学1年が1名、小学2年が1名、小学3年が2名、小学4生が6名、小学5生が11名、小学6生が15名、中学1年生が40名、中学2生が52名、中学3年生が53名であった。

不登校期間の学年ごとの累積人数

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
累積人数	1	1	2	6	11	15	40	52	53

不登校期間の学年ごとの累積人数



3. 適応指導教室の知り方

「あなたは適応指導教室をどのように知りましたか？ 当てはまるものを選択肢から選んでください」とたずねた。回答は複数回答を可とした。回答数は105名で、無回答は13名であった。

適応指導教室の知り方は、回答者全体での回答では、「g. 今回の調査で知った」、「a. 家族から聞いた」、「c. 学校の職員から聞いた」の順で高かった。

不登校経験別での知り方は、岡山市の適応指導教室の利用経験のある者は、「a. 家族から聞いた」、「c. 学校の教員から聞いた」、「d. 学校のスクールカウンセラーから聞いた」の順で高く、岡山市外の適応指導教室の利用経験のある者は、「c. 学校の教員から聞いた」、「a. 家族から聞いた」、「d. 学校のスクールカウンセラーから聞いた」の順で高く、適応指導教室の利用経験のない者では「g. 今回の調査で初めて知った」、「h. その他」、「a. 家族から聞いた / c. 学校の教員から聞いた」の順で高かった。

回答者全体での知り方の選択人数(複数回答可)

a. 家族から聞いた	26
b. 知り合いから聞いた	2
c. 学校の教員から聞いた	24
d. 学校のスクールカウンセラーから聞いた	9
e. 学校からの配布物	19
f. インターネットで調べた	1
g. 今回の調査で初めて知った	45
h. その他	7
無回答	12

不登校経験別での知り方の選択人数(複数回答可)

	岡山市を利用	岡山市外を利用	利用経験なし
a. 家族から聞いた	14	4	4
b. 知り合いから聞いた	0	0	1
c. 学校の教員から聞いた	8	5	4
d. 学校のスクールカウンセラーから聞いた	5	2	1
e. 学校からの配布物	3	1	2
f. インターネットで調べた	1	0	0
g. 今回の調査で初めて知った	0	0	15
h. その他	1	0	5
無回答	0	0	9

適応指導教室の利用経験がある者の結果は、岡山市と岡山市外でも結果は似たような形となり、学校や親から聞いたという回答が多いものとなった。その一方、適応指導教室の利用経験のない者では、今回の調査で初めて知ったといった回答が多かった。適応指導教室についての一般的な認知度の低さが影響していると考えられる。

4. 適応指導教室の利用目的

「適応指導教室に通い始めの頃の目的はなんでしたか？ 利用したことがない場合は、何があれば適応指導教室に通いたいと思いますか？」と5件法(①全く当てはまらない～⑤とても当てはまる)でたずねた。

調査対象全体での評価人数

	評価人数(合計66人)				
	①	②	③	④	⑤
1. 相談、カウンセリング	6	13	10	23	14
2. 学習、勉強	8	3	9	27	19
3. 家、学校以外の居場所として	18	9	13	11	15
4. 学校の出席扱いになるから	5	7	9	16	29
5. 遊びに行く場所として	23	12	14	11	6
6. 分からない	31				
無回答	20				

不登校経験別の評価人数

	不登校経験あり					不登校経験なし				
	評価人数(合計44人)					評価人数(合計22人)				
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
1.	1	11	8	16	8	5	2	2	7	6
2.	4	1	6	19	14	4	2	3	8	5
3.	9	7	7	9	12	9	2	6	2	3
4.	0	4	4	12	24	5	3	5	4	5
5.	14	8	10	9	3	9	4	4	2	3
6.	8					23				
無回答	11					9				

適応指導教室利用験別での評価人数

	岡山市の適応指導教室を利用					岡山市外の適応指導教室を利用					適応指導教室の利用経験なし				
	評価人数(合計19人)					評価人数(合計8人)					評価人数(合計18人)				
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
1.	1	4	2	6	6	0	4	1	2	1	0	3	5	8	2
2.	0	0	5	7	7	2	1	0	5	0	2	0	2	8	7
3.	2	3	2	4	8	2	1	1	2	2	5	4	5	3	2
4.	0	3	1	2	13	0	0	0	5	3	0	2	3	5	8
5.	6	5	4	3	1	2	2	1	3	0	6	1	6	3	2
6.	0					0					8				
無回答	0					0					10				

「①+② 当てはまらない」「③ どちらでもない」「④+⑤ 当てはまる」ごとに、評価人数の割合を求めた。

回答者全体では、項目1、項目2、項目4を「当てはまる」と回答した者が多く、項目5を「当てはまらない」と回答した者が多かった。項目3については、「当てはまる」と「当てはまらない」を選択した人数が同程度となった。

調査対象全体での評価人数の割合

	評価人数(合計66人)		
	①+②	③	④+⑤
1. 相談、カウンセリング	28.8%	15.2%	56.1%
2. 学習、勉強	16.7%	13.6%	69.7%
3. 家、学校以外の居場所として	40.9%	19.7%	39.4%
4. 学校の出席扱いになるから	18.2%	13.6%	68.2%
5. 遊びに行く場所として	53.0%	21.2%	25.8%

不登校の経験別で評価人数の割合を求めた。

不登校経験のある者は項目 1、項目 2、項目 4 を「当てはまる」と回答した者が多く、項目5を「当てはまらない」と回答した者が多かった。項目3については、「当てはまる」と「当てはまらない」を選択した人数が同程度となった。

不登校経験のない者は、項目 1、項目 2 を「当てはまる」と回答した者が多く、項目 3、項目5を「当てはまらない」と回答した者が多かった。項目 4 については、「当てはまる」と「当てはまらない」を選択した人数が同程度となった。

不登校経験別での評価人数の割合

	不登校経験あり			不登校経験なし		
	評価人数(合計44人)			評価人数(合計22人)		
	①+②	③	④+⑤	①+②	③	④+⑤
1.	27.3%	18.2%	54.5%	31.8%	9.1%	59.1%
2.	11.4%	13.6%	75.0%	27.3%	13.6%	59.1%
3.	36.4%	15.9%	47.7%	50.0%	27.3%	22.7%
4.	9.1%	9.1%	81.8%	36.4%	22.7%	40.9%
5.	50.0%	22.7%	27.3%	59.1%	18.2%	22.7%

適応指導教室の利用経験別で評価人数の割合を求めた。

岡山市の適応指導教室の利用経験者は、項目 1、項目 2、項目 3、項目 4 を「当てはまる」と回答した者が多く、項目5を「当てはまらない」と回答した者が多かった。

岡山市外の適応指導教室の利用経験者は、項目 2、項目 3、項目 4 を「当てはまる」と回答した者が多く、項目 1、項目5を「当てはまらない」と回答した者が多かった。

適応指導教室の利用経験のない者は、項目 1、項目 2、項目 4 を「当てはまる」と回答した者が多く、項目 3 を「当てはまらない」と回答した者が多かった。項目 5 については、「当てはまる」と「当てはまらない」を選択した人数が同程度となった。

適応指導教室利用経験別での評価人数の割合

	岡山市の適応指導教室を利用			岡山市外の適応指導教室を利用			適応指導教室の利用経験なし		
	評価			評価			評価		
	①+②	③	④+⑤	①+②	③	④+⑤	①+②	③	④+⑤
1.	26.3%	10.5%	63.2%	50.0%	12.5%	37.5%	16.7%	27.8%	55.6%
2.	0.0%	26.3%	73.7%	37.5%	0.0%	62.5%	11.1%	11.1%	83.3%
3.	26.3%	10.5%	63.2%	37.5%	12.5%	50.0%	50.0%	27.8%	27.8%
4.	15.8%	5.3%	78.9%	0.0%	0.0%	100.0%	11.1%	16.7%	72.2%
5.	57.9%	21.1%	21.1%	50.0%	12.5%	37.5%	38.9%	33.3%	27.8%

適応指導教室の利用し始めの目的について、不登校の経験の有無や適応指導教室の利用経験によって異なる結果が得られた。

岡山市と岡山市外の適応指導教室の利用経験のある者を比較すると、『相談、カウンセリング』に対する評価が異なっており、岡山市では適応指導教室に相談場所としての機能を利用目的として期待していることが考えられる。他市の適応指導教室とどうして結果が異なるのか、さらなる調査検討が必要になるとと思われる。

不登校経験のない者や適応指導教室の利用経験のない者は、『家、学校以外の居場所として』を「当てはまらない」と評価する者が多かった。実際の利用や困った経験がないため、適応指導教室に対して居場所としての機能を、利用当初の目的としてイメージしにくかったのだと思われる。

どの結果においても、『学習、勉強』『学校の出席扱いになるから』の評価は「当てはまる」が高く、適応指導教室に対して学校の代替機関としての機能を期待していると思われる。

また、『遊びに行く場所として』を「当てはまらない」と評価する者が多く、適応指導教室の利用をし始めるきっかけとして、遊びから始めるということに気持ちの上では抵抗を持つ者が多い可能性が考えられる。

5. 適応指導教室の活動・環境

「適応指導教室がどんなところであれば通いやすいか？」と5件法(①全く当てはまらない～⑤とても当てはまる)でたずねた。

調査対象全体での評価人数

	評価人数(合計116人)				
	①	②	③	④	⑤
1. 学校の勉強が出来る事	4	7	18	44	43
2. 学校の勉強以外の、自分の学びたいことが学べる事	7	7	17	50	35
3. 悩んでいることや心配なことなどを相談できる事	4	7	19	31	55
4. 自宅以外で過ごせる場である事	16	5	39	31	25
5. 状態や状況について受け入れてくれる人と出会える事	5	4	22	36	49
6. 同じくらいの年齢の人が通っている事	12	7	36	33	28
7. 不登校になる前の段階で、学校を離れて通ったり相談したりできる場所である事	10	10	40	29	27
8. 自分の趣味に関するものを持参できたり、興味を持っているものが置いてある事	12	14	22	27	41
9. 学校の出席扱いになる事	5	3	22	34	52
10. 自宅の近隣で通いやすい事	11	7	28	35	35
11. 保護者の送迎が必要でない事	11	15	41	23	26
12. 公共交通機関を利用して通うことが出来る事	16	10	35	28	27
無回答	1				

不登校経験別の評価人数

	不登校経験あり					不登校経験なし				
	評価人数（合計63人）					評価人数（合計53人）				
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
1.	3	3	10	23	24	1	4	8	21	19
2.	3	6	8	28	18	4	1	9	22	17
3.	3	6	7	22	25	1	1	12	9	30
4.	8	2	20	19	14	8	3	19	12	11
5.	3	3	10	20	27	2	1	12	16	22
6.	7	5	20	19	12	5	2	16	14	16
7.	5	7	26	13	12	5	3	14	16	15
8.	4	12	10	17	20	8	2	12	10	21
9.	3	1	8	17	34	2	2	14	17	18
10.	6	4	12	23	18	5	3	16	12	17
11.	7	9	21	16	10	4	6	20	7	16
12.	8	7	18	15	15	8	3	17	13	12
無回答	0					1				

適応指導教室利用経験別での評価人数

	岡山市の適応指導教室を利用					岡山市外の適応指導教室を利用					適応指導教室の利用経験なし				
	評価人数（合計19人）					評価人数（合計8人）					評価人数（合計36人）				
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
1.	1	2	3	5	8	0	0	2	5	1	2	1	5	13	15
2.	0	2	4	8	5	0	0	1	5	2	3	4	3	15	11
3.	1	1	2	8	7	0	0	1	3	4	2	5	4	11	14
4.	0	0	5	7	7	0	0	2	4	2	8	2	13	8	5
5.	0	0	4	6	9	0	0	1	2	5	3	3	5	12	13
6.	1	2	10	4	2	1	1	1	3	2	5	2	9	11	9
7.	0	3	8	4	4	1	0	1	4	2	4	4	17	5	6
8.	1	5	4	4	5	1	3	0	2	2	2	4	6	11	13
9.	1	0	2	3	13	0	0	0	3	5	2	1	6	11	16
10.	2	2	3	6	6	1	0	2	4	1	2	2	7	14	11
11.	1	4	8	1	5	1	0	3	3	1	5	5	10	12	4
12.	2	2	5	4	6	1	0	1	4	2	5	5	12	7	7
無回答	0					0					0				

「①+② 当てはまらない」「③ どちらでもない」「④+⑤ 当てはまる」ごとに、評価人数の割合をだした。

回答者全体では、項目1、項目2、項目3、項目5、項目6、項目8、項目9、項目10を「当てはまる」と回答した者が多かった。項目4、項目7、項目11、項目12については、「当てはまる」と「どちらでもない」を選択した人数が同程度となった。

調査対象全体での評価人数の割合

	評価人数(合計116人)		
	①+②	③	④+⑤
1. 学校の勉強が出来る事	9.5%	15.5%	75.0%
2. 学校の勉強以外の、自分の学びたいことが学べる事	12.1%	14.7%	73.3%
3. 悩んでいることや心配なことなどを相談できる事	9.5%	16.4%	74.1%
4. 自宅以外で過ごせる場である事	18.1%	33.6%	48.3%
5. 状態や状況について受け入れてくれる人と出会える事	7.8%	19.0%	73.3%
6. 同じくらいの年齢の人が通っている事	16.4%	31.0%	52.6%
7. 不登校になる前の段階で、学校を離れて通ったり相談したりできる場所である事	17.2%	34.5%	48.3%
8. 自分の趣味に関するものを持参できたり、興味を持っているものが置いてある事	22.4%	19.0%	58.6%
9. 学校の出席扱いになる事	6.9%	19.0%	74.1%
10. 自宅の近隣で通いやすい事	15.5%	24.1%	60.3%
11. 保護者の送迎が必要でない事	22.4%	35.3%	42.2%
12. 公共交通機関を利用して通うことが出来る事	22.4%	30.2%	47.4%

不登校の経験別で評価人数の割合を求めた。

不登校経験のある者は項目1、項目2、項目3、項目4、項目5、項目8、項目9、項目10、項目12を「当てはまる」と回答した者が多かった。項目6、項目7、項目11については、「当てはまる」と「当てはまらない」を選択した人数が同程度となった。

不登校経験のない者は、項目1、項目2、項目3、項目5、項目6、項目7、項目8、項目9、項目10を「当てはまる」と回答した者が多かった。項目4、項目11、項目12については、「当てはまる」と「当てはまらない」を選択した人数が同程度となった。

不登校経験別での評価人数の割合

	不登校経験あり			不登校経験なし		
	評価人数(合計63人)			評価人数(合計53人)		
	①+②	③	④+⑤	①+②	③	④+⑤
1.	9.5%	15.9%	74.6%	9.4%	15.1%	75.5%
2.	14.3%	12.7%	73.0%	9.4%	17.0%	73.6%
3.	14.3%	11.1%	74.6%	3.8%	22.6%	73.6%
4.	15.9%	31.7%	52.4%	20.8%	35.8%	43.4%
5.	9.5%	15.9%	74.6%	5.7%	22.6%	71.7%
6.	19.0%	31.7%	49.2%	13.2%	30.2%	56.6%
7.	19.0%	41.3%	39.7%	15.1%	26.4%	58.5%
8.	25.4%	15.9%	58.7%	18.9%	22.6%	58.5%
9.	6.3%	12.7%	81.0%	7.5%	26.4%	66.0%
10.	15.9%	19.0%	65.1%	15.1%	30.2%	54.7%
11.	25.4%	33.3%	41.3%	18.9%	37.7%	43.4%
12.	23.8%	28.6%	47.6%	20.8%	32.1%	47.2%

適応指導教室の利用経験別で評価人数の割合を求めた。

岡山市の適応指導教室の利用経験者は、項目 1、項目 2、項目 3、項目 4、項目 5、項目 9、項目 10、項目 12 を「当てはまる」と回答した者が多く、項目 6 を「どちらでもない」と評価する者が多かった。項目 7、項目 8、項目 11 については、「当てはまる」と「どちらでもない」と「当てはまらない」を選択した人数が同程度となった。

岡山市外の適応指導教室の利用経験者は、項目 1、項目 2、項目 3、項目 4、項目 5、項目 6、項目 7、項目 9、項目 10、項目 11、項目 12 を「当てはまる」と回答した者が多かった。項目 8 については「当てはまる」と「当てはまらない」を選択した人数が同程度となった。

適応指導教室の利用経験のない者は、項目 1、項目 2、項目 3、項目 5、項目 6、項目 8、項目 9、項目 10 を「当てはまる」と回答した者が多かった。項目 4、項目 7、項目 11、項目 12 については、「当てはまる」と「どちらでもない」と「当てはまらない」を選択した人数が同程度となった。

適応指導教室利用経験別での評価人数の割合

	岡山市の適応指導教室を利用			岡山市外の適応指導教室を利用			適応指導教室の利用経験なし		
	評価人数（合計19人）			評価人数（合計8人）			評価人数（合計36人）		
	①+②	③	④+⑤	①+②	③	④+⑤	①+②	③	④+⑤
1.	15.8%	15.8%	68.4%	0.0%	25.0%	75.0%	8.3%	13.9%	77.8%
2.	10.5%	21.1%	68.4%	0.0%	12.5%	87.5%	19.4%	8.3%	72.2%
3.	10.5%	10.5%	78.9%	0.0%	12.5%	87.5%	19.4%	11.1%	69.4%
4.	0.0%	26.3%	73.7%	0.0%	25.0%	75.0%	27.8%	36.1%	36.1%
5.	0.0%	21.1%	78.9%	0.0%	12.5%	87.5%	16.7%	13.9%	69.4%
6.	15.8%	52.6%	31.6%	25.0%	12.5%	62.5%	19.4%	25.0%	55.6%
7.	15.8%	42.1%	42.1%	12.5%	12.5%	75.0%	22.2%	47.2%	30.6%
8.	31.6%	21.1%	47.4%	50.0%	0.0%	50.0%	16.7%	16.7%	66.7%
9.	5.3%	10.5%	84.2%	0.0%	0.0%	100.0%	8.3%	16.7%	75.0%
10.	21.1%	15.8%	63.2%	12.5%	25.0%	62.5%	11.1%	19.4%	69.4%
11.	26.3%	42.1%	31.6%	12.5%	37.5%	50.0%	27.8%	27.8%	44.4%
12.	21.1%	26.3%	52.6%	12.5%	12.5%	75.0%	27.8%	33.3%	38.9%

全体的に「当てはまる」と評価されていたが、いくつか評価の分かれる項目が存在した。

項目7の『不登校になる前の段階で学校を離れて通ったり相談できたりする場所であること』は、岡山市の適応指導教室利用経験者と利用経験のない者では評価が分かれているが、岡山市外の適応指導教室の利用経験者では、「当てはまる」と評価している者の方が多かった。市内外で不登校に対する予防的な面に関する意識の違いがあると思われる。

項目8の『自分の趣味に関する物を持参できたり、興味がある物が置いてあること』は、適応指導教室の利用経験者では、必要と考える者もいれば必要でないとする者もあり、評価が分かっていた。柔軟な対応が必要だと思われる。

項目11の『保護者の送迎が必要でないこと』は、岡山市の適応指導教室利用経験者と利用経験のない者は評価が分かっていたが、岡山市外の適応指導教室利用経験者では「当てはまる」と評価する者が多かった。岡山市の地域の広さや適応指導教室の立地による影響が考えられる。

6.通うために必要なこと

「適応指導教室に通うために必要なことは何とと思いますか?」と5件法(①全く必要ではない～⑤とても必要である)でたずねた。

調査対象全体での評価人数

	評価人数(合計117人)				
	①	②	③	④	⑤
1. 適応指導教室の雰囲気慣れること	3	3	15	40	56
2. 適応指導教室の職員に慣れること	6	4	17	38	52
3. 適応指導教室に通うための生活リズムに慣れること	4	2	20	44	47
4. 適応指導教室に通う方法に慣れること	5	5	31	39	37
無回答	0				

不登校経験別の評価人数

	不登校経験あり					不登校経験なし				
	評価人数(合計63人)					評価人数(合計54人)				
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
1.	1	1	6	25	30	2	2	9	15	26
2.	3	1	7	26	26	3	3	10	12	26
3.	1	0	6	25	31	3	2	14	19	16
4.	1	4	14	23	21	4	1	17	16	16
無回答	0					0				

適応指導教室利用経験別での評価人数

	岡山市の適応指導教室を利用					岡山市外の適応指導教室を利用					適応指導教室の利用経験なし				
	評価人数(合計19人)					評価人数(合計8人)					評価人数(合計36人)				
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
1.	0	0	4	8	7	0	1	0	5	2	1	0	2	12	21
2.	2	0	2	8	7	0	0	1	4	3	1	1	4	14	16
3.	0	0	0	9	10	0	0	0	3	5	1	0	6	13	16
4.	0	0	6	6	7	0	1	0	4	3	1	3	8	13	11
無回答	0					0					0				

「①+② 当てはまらない」「③ どちらでもない」「④+⑤ 当てはまる」ごとに、評価人数の割合をだした。

回答者全体では、全ての項目において「当てはまる」と回答した者が多かった。

調査対象全体での評価人数の割合

	評価人数(合計117人)		
	①+②	③	④+⑤
1. 適応指導教室の雰囲気慣れること	3.2%	9.5%	87.3%
2. 適応指導教室の職員に慣れること	6.3%	11.1%	82.5%
3. 適応指導教室に通うための生活リズムに慣れること	1.6%	9.5%	88.9%
4. 適応指導教室に通う方法に慣れること	7.9%	22.2%	69.8%

不登校の経験別で評価人数の割合を求めた。

不登校経験のある者でも、不登校経験のない者でも全ての項目において「当てはまる」と回答した者が多かった。

不登校経験別での評価人数の割合

	不登校経験あり			不登校経験なし		
	評価人数(合計63人)			評価人数(合計54人)		
	①+②	③	④+⑤	①+②	③	④+⑤
1.	3.2%	9.5%	87.3%	7.4%	16.7%	75.9%
2.	6.3%	11.1%	82.5%	11.1%	18.5%	70.4%
3.	1.6%	9.5%	88.9%	9.3%	25.9%	64.8%
4.	7.9%	22.2%	69.8%	9.3%	31.5%	59.3%

適応指導教室の利用経験別で評価人数の割合を求めた。

岡山市の適応指導教室の利用経験者でも、岡山市外の適応指導教室の利用経験者でも、適応指導教室の利用経験のない者においても、全ての項目において「当てはまる」と回答した者が多かった。

適応指導教室利用経験別での評価人数の割合

	岡山市の適応指導教室を利用			岡山市外の適応指導教室を利用			適応指導教室の利用経験なし		
	評価人数(合計19人)			評価人数(合計8人)			評価人数(合計36人)		
	①+②	③	④+⑤	①+②	③	④+⑤	①+②	③	④+⑤
1.	0.0%	21.1%	78.9%	12.5%	0.0%	87.5%	2.8%	5.6%	91.7%
2.	10.5%	10.5%	78.9%	0.0%	12.5%	87.5%	5.6%	11.1%	83.3%
3.	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	2.8%	16.7%	80.6%
4.	0.0%	31.6%	68.4%	12.5%	0.0%	87.5%	11.1%	22.2%	66.7%

どの項目においても高く評価をしている者が多い結果となった。全体的にも高く評価されることが想定された質問項目ではあったが、項目4の評価について、適応指導教室の利用経験別で少し違いが見られた。

項目4の『適応指導教室に通う方法に慣れること』について、岡山市の適応指導教室利用経験者では「どちらでもない」と評価する者が3割程度おり、岡山市外の適応指導教室利用経験者の「どちらでもない」の評価人数と比較すると多い人数であった。この結果は【5.適応指導教室の活動・環境】の項目11との関連が考えられる。

7.職員に望むこと

「適応指導教室の職員に望むことはどんなことですか?」と5件法(①全く必要ではない～⑤とても必要である)でたずねた。

調査対象全体での評価人数

	評価人数(合計115人)				
	①	②	③	④	⑤
1. 不登校についての専門性(症状や障害の理解、不登校についての知識や理解、対応の技術)	4	3	13	31	64
2. 自分の趣味(PC、インターネット、ゲーム、漫画、アニメ、等)についての知識や理解	3	8	28	35	41
3. 勉強が苦手な人に教えるのが上手であることや、どのように勉強をすればいいのかを教えてくれること	3	0	11	40	61
4. 自分の気持ちに共感や理解してくれること	1	3	16	31	64
5. 学校へ通う事だけではなく違う道(生き方)についても一緒に考えてくれること	5	2	27	43	38
6. 自分の事を肯定してくれたり、自分で決めたことを尊重してくれること	3	2	19	36	55
7. 気軽に話せたり、相談出来ること	1	1	9	39	65
8. 適応指導教室の制度や機能についてよく理解していること	1	1	30	34	49
無回答	2				

不登校経験別の評価人数

	不登校経験あり					不登校経験なし				
	評価人数(合計63人)					評価人数(合計52人)				
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
1.	1	1	4	21	36	3	2	9	10	28
2.	1	6	18	19	19	2	2	10	16	22
3.	0	0	4	24	35	3	0	7	16	26
4.	0	2	10	17	34	1	1	6	14	30
5.	3	1	12	25	22	2	1	15	18	16
6.	2	0	10	22	29	1	2	9	14	26
7.	0	1	3	23	36	1	0	6	16	29
8.	0	1	12	20	30	1	0	18	14	19
無回答	0					2				

適応指導教室利用経験別での評価人数

	岡山市の適応指導教室を利用					岡山市外の適応指導教室を利用					適応指導教室の利用経験なし				
	評価人数(合計19人)					評価人数(合計8人)					評価人数(合計36人)				
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
1.	0	0	1	7	11	0	1	0	3	4	1	0	3	11	21
2.	0	2	8	6	3	1	2	2	1	2	0	2	8	12	14
3.	0	0	1	8	10	0	0	1	3	4	0	0	2	13	21
4.	0	0	3	4	12	0	0	0	5	3	0	2	7	8	19
5.	0	1	2	9	7	0	0	0	5	3	3	0	10	11	12
6.	0	0	1	9	9	0	0	3	2	3	2	0	6	11	17
7.	0	0	0	7	12	0	0	0	4	4	0	1	3	12	20
8.	0	0	4	7	8	0	0	1	3	4	0	1	7	10	18
無回答	0					0					0				

「①+② 当てはまらない」「③ どちらでもない」「④+⑤ 当てはまる」ごとに、評価人数の割合をだした。

不登校経験のある者でも、不登校経験のない者でも全ての項目において「当てはまる」と回答した者が多かった。

調査対象全体での評価人数の割合

	評価人数(合計115人)		
	①+②	③	④+⑤
1. 不登校についての専門性(症状や障害の理解、不登校についての知識や理解、対応の技術)	6.1%	11.3%	82.6%
2. 自分の趣味(PC、インターネット、ゲーム、漫画、アニメ、等)についての知識や理解	9.6%	24.3%	66.1%
3. 勉強が苦手な人に教えるのが上手であることや、どのように勉強をすればいいのかを教えてくれること	2.6%	9.6%	87.8%
4. 自分の気持ちに共感や理解してくれること	3.5%	13.9%	82.6%
5. 学校へ通う事だけではない違う道(生き方)についても一緒に考えてくれること	6.1%	23.5%	70.4%
6. 自分の事を肯定してくれたり、自分で決めたことを尊重してくれること	4.3%	16.5%	79.1%
7. 気軽に話せたり、相談出来ること	1.7%	7.8%	90.4%
8. 適応指導教室の制度や機能についてよく理解していること	1.7%	26.1%	72.2%

不登校の経験別で評価人数の割合を求めた。

不登校経験のある者でも、不登校経験のない者でも全ての項目において「当てはまる」と回答した者が多かった。

不登校経験別での評価人数の割合

	不登校経験あり			不登校経験なし		
	評価人数(合計63人)			評価人数(合計52人)		
	①+②	③	④+⑤	①+②	③	④+⑤
1.	3.2%	6.3%	90.5%	9.6%	17.3%	73.1%
2.	11.1%	28.6%	60.3%	7.7%	19.2%	73.1%
3.	0.0%	6.3%	93.7%	5.8%	13.5%	80.8%
4.	3.2%	15.9%	81.0%	3.8%	11.5%	84.6%
5.	6.3%	19.0%	74.6%	5.8%	28.8%	65.4%
6.	3.2%	15.9%	81.0%	5.8%	17.3%	76.9%
7.	1.6%	4.8%	93.7%	1.9%	11.5%	86.5%
8.	1.6%	19.0%	79.4%	1.9%	34.6%	63.5%

適応指導教室の利用経験別で評価人数の割合を求めた。

岡山市の適応指導教室の利用経験者と岡山市外の適応指導教室の利用経験者では、項目2以外の項目は「当てはまる」と回答した者が多かった。項目2については、「当てはまる」と「どちらでもない」と「当てはまらない」を選択した人数が同程度となった。

適応指導教室の利用経験のない者は、全ての項目において「当てはまる」と回答した者が多かった。

適応指導教室利用経験別での評価人数の割合

	岡山市の適応指導教室を利用			岡山市外の適応指導教室を利用			適応指導教室の利用経験なし		
	評価人数(合計19人)			評価人数(合計8人)			評価人数(合計36人)		
	①+②	③	④+⑤	①+②	③	④+⑤	①+②	③	④+⑤
1.	0.0%	5.3%	94.7%	12.5%	0.0%	87.5%	2.8%	8.3%	88.9%
2.	10.5%	42.1%	47.4%	37.5%	25.0%	37.5%	5.6%	22.2%	72.2%
3.	0.0%	5.3%	94.7%	0.0%	12.5%	87.5%	0.0%	5.6%	94.4%
4.	0.0%	15.8%	84.2%	0.0%	0.0%	100.0%	5.6%	19.4%	75.0%
5.	5.3%	10.5%	84.2%	0.0%	0.0%	100.0%	8.3%	27.8%	63.9%
6.	0.0%	5.3%	94.7%	0.0%	37.5%	62.5%	5.6%	16.7%	77.8%
7.	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	2.8%	8.3%	88.9%
8.	0.0%	21.1%	78.9%	0.0%	12.5%	87.5%	2.8%	19.4%	77.8%

どの項目も高く評価をしている者が多い結果であったが、適応指導教室の利用経験のある者では、項目2の評価が分かれていた。

項目2の『自分の趣味(PC、インターネット、ゲーム、漫画、アニメ、等)についての知識や理解』について、不登校経験のない者や適応指導教室の利用経験のない者と比較すると、適応指導教室の利用経験のある者では「当てはまる」と評価する者が少なかった。実際に適応指導教室を利用していることが結果に影響している可能性が考えられる。

8. 適応指導教室に必要なこと

「適応指導教室が通いやすくなるためにはどんなことが必要だと思いますか?」と5件法(①全く必要ではない～⑤とても必要である)でたずねた。

調査対象全体での評価人数

	評価人数(合計115人)				
	①	②	③	④	⑤
1. 自分のやりたいことを一緒に考えてもらえること	3	0	9	50	53
2. 個別にじっくりと話を聞いてもらえたり、悩んでいることや心配なことを相談出来ること	1	1	13	41	59
3. 職員が自宅へ訪問するといった訪問型の支援があること	18	25	38	21	13
4. 通い始めの頃は一緒に遊ぶ事だけを目的としていること	7	15	40	35	18
5. 静かに読書が出来るなど、好きなことのできる時間と場所があること	1	3	20	42	49
6. 勉強することが好きになれるように教えてくれること	2	6	35	37	35
7. インターネットを用いたオンラインの支援があること	9	15	45	28	18
8. 通い始める前に、適応指導教室の制度や機能、活動内容についてしっかりと説明があること	0	2	19	38	56
9. 通いにくいので「適応指導教室」という名称を変更すること	17	18	40	23	17
10. 適応指導教室について、インターネットのホームページから詳しい情報が得られること	1	2	30	39	43
11. どんな活動をしたいと思って通室し始めるのか事前に聞き取りを行うこと	4	7	31	43	30
12. 状態によっては病院などの他の施設や機関を紹介してくれること	5	8	27	52	23
13. 通う時間帯を自由に選べること	5	6	21	26	57
14. 通う頻度を自由に選べること	3	5	19	30	58
15. パソコン等を利用した授業があること	5	13	33	36	28
16. テレビゲーム、PCゲーム、ボードゲーム、で一緒に遊べること	8	10	27	31	39
17. 職員と一緒に何か制作物を作る活動があること	7	8	26	43	31
無回答	2				

不登校経験別の評価人数

	不登校経験あり 評価人数(合計62人)					不登校経験なし 評価人数(合計53人)				
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
1.	1	0	4	31	26	2	0	5	19	27
2.	0	1	4	29	28	1	0	9	12	31
3.	11	17	18	9	7	7	8	20	12	6
4.	3	8	20	23	8	4	7	20	12	10
5.	0	2	8	29	23	1	1	12	13	26
6.	0	4	19	21	18	2	2	16	16	17
7.	5	12	26	14	5	4	3	19	14	13
8.	0	2	8	24	28	0	0	11	14	28
9.	10	13	21	13	5	7	5	19	10	12
10.	0	1	13	29	19	1	1	17	10	24
11.	1	6	17	25	13	3	1	14	18	17
12.	2	7	17	27	9	3	1	10	25	14
13.	1	4	6	19	32	4	2	15	7	25
14.	0	2	6	19	35	3	3	13	11	23
15.	3	9	20	19	11	2	4	13	17	17
16.	3	6	15	18	20	5	4	12	13	19
17.	3	5	16	23	15	4	3	10	20	16
無回答	1					1				

適応指導教室利用経験別での評価人数

	岡山市の適応指導教室を利用 評価人数(合計19人)					岡山市外の適応指導教室を利用 評価人数(合計8人)					適応指導教室の利用経験なし 評価人数(合計36人)				
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
1.	0	0	1	10	8	0	0	0	6	2	1	0	3	16	16
2.	0	0	0	10	9	0	0	1	3	4	0	1	3	16	16
3.	1	3	8	5	2	1	4	0	2	1	9	10	10	2	5
4.	0	4	5	6	4	2	1	3	2	0	1	3	12	15	5
5.	0	0	1	8	10	0	0	1	4	3	0	2	6	17	11
6.	0	0	5	8	6	0	2	3	2	1	0	2	11	11	11
7.	2	4	7	4	2	0	2	4	1	1	3	6	15	9	3
8.	0	1	1	6	11	0	0	1	3	4	0	1	6	15	14
9.	6	1	5	6	1	1	3	3	1	0	3	9	14	6	4
10.	0	0	4	8	7	0	0	2	3	3	0	1	7	18	10
11.	1	1	6	7	4	0	2	0	4	2	0	3	11	14	8
12.	0	1	7	8	3	0	1	1	5	1	2	5	9	14	6
13.	1	2	2	5	9	0	0	1	4	3	0	2	3	10	21
14.	0	1	2	6	10	0	0	1	2	5	0	1	3	11	21
15.	3	4	7	4	1	0	2	1	3	2	0	3	12	12	9
16.	2	1	6	6	4	0	2	1	3	2	1	3	8	9	15
17.	0	0	7	6	6	0	1	0	4	3	3	4	9	13	7
無回答	0					0					0				

「①+② 当てはまらない」「③ どちらでもない」「④+⑤ 当てはまる」ごとに、評価人数の割合をだした。

回答者全体では、多くの項目において「当てはまる」と回答した者が多かったが、項目 3、項目 4、項目 7、項目 9については、「当てはまる」と「どちらでもない」「当てはまらない」を選択した人数が同程度となった。

調査対象全体での評価人数の割合

	評価人数(合計115人)		
	①+②	③	④+⑤
1. 自分のやりたいことを一緒に考えてもらえること	2.6%	7.8%	89.6%
2. 個別にじっくりと話を聞いてもらえたり、悩んでいることや心配なことを相談出来ること	1.7%	11.3%	87.0%
3. 職員が自宅へ訪問するといった訪問型の支援があること	37.4%	33.0%	29.6%
4. 通い始めの頃は一緒に遊ぶ事だけを目的としていること	19.1%	34.8%	46.1%
5. 静かに読書が出来るなど、好きなことのできる時間と場所があること	3.5%	17.4%	79.1%
6. 勉強することが好きになれるように教えてくれること	7.0%	30.4%	62.6%
7. インターネットを用いたオンラインの支援があること	20.9%	39.1%	40.0%
8. 通い始める前に、適応指導教室の制度や機能、活動内容についてしっかりと説明があること	1.7%	16.5%	81.7%
9. 通いにくいので「適応指導教室」という名称を変更すること	30.4%	34.8%	34.8%
10. 適応指導教室について、インターネットのホームページから詳しい情報が得られること	2.6%	26.1%	71.3%
11. どんな活動をしたかと思って通室し始めるのか事前に聞き取りを行うこと	9.6%	27.0%	63.5%
12. 状態によっては病院などの他の施設や機関を紹介してくれること	11.3%	23.5%	65.2%
13. 通う時間帯を自由に選べること	9.6%	18.3%	72.2%
14. 通う頻度を自由に選べること	7.0%	16.5%	76.5%
15. パソコン等を利用した授業があること	15.7%	28.7%	55.7%
16. テレビゲーム、PCゲーム、ボードゲーム、で一緒に遊べること	15.7%	23.5%	60.9%
17. 職員と一緒に何か制作物を作る活動があること	13.0%	22.6%	64.3%

不登校の経験別で評価人数の割合を求めた。

不登校経験のある者は多くの項目において「当てはまる」と回答した者が多かったが、項目7、項目9、項目15については、「当てはまる」と「どちらでもない」「当てはまらない」を選択した人数が同程度となった。また、項目3については「当てはまらない」と評価する者が多かった。

不登校経験のない者は多くの項目において「当てはまる」と回答した者が多かったが、項目3、項目4、項目9については、「当てはまる」と「どちらでもない」「当てはまらない」を選択した人数が同程度となった。

不登校経験別での評価人数の割合

	不登校経験あり			不登校経験なし		
	評価人数(合計62人)			評価人数(合計53人)		
	①+②	③	④+⑤	①+②	③	④+⑤
1.	1.6%	6.5%	91.9%	3.8%	9.4%	86.8%
2.	1.6%	6.5%	91.9%	1.9%	17.0%	81.1%
3.	45.2%	29.0%	25.8%	28.3%	37.7%	34.0%
4.	17.7%	32.3%	50.0%	20.8%	37.7%	41.5%
5.	3.2%	12.9%	83.9%	3.8%	22.6%	73.6%
6.	6.5%	30.6%	62.9%	7.5%	30.2%	62.3%
7.	27.4%	41.9%	30.6%	13.2%	35.8%	50.9%
8.	3.2%	12.9%	83.9%	0.0%	20.8%	79.2%
9.	37.1%	33.9%	29.0%	22.6%	35.8%	41.5%
10.	1.6%	21.0%	77.4%	3.8%	32.1%	64.2%
11.	11.3%	27.4%	61.3%	7.5%	26.4%	66.0%
12.	14.5%	27.4%	58.1%	7.5%	18.9%	73.6%
13.	8.1%	9.7%	82.3%	11.3%	28.3%	60.4%
14.	3.2%	9.7%	87.1%	11.3%	24.5%	64.2%
15.	19.4%	32.3%	48.4%	11.3%	24.5%	64.2%
16.	14.5%	24.2%	61.3%	17.0%	22.6%	60.4%
17.	12.9%	25.8%	61.3%	13.2%	18.9%	67.9%

適応指導教室の利用経験別で評価人数の割合を求めた。

岡山市の適応指導教室の利用経験者は多くの項目において「当てはまる」と回答した者が多かったが、項目 3、項目 4、項目 7、項目 9、項目 15 については、「当てはまる」と「どちらでもない」「当てはまらない」を選択した人数が同程度となった。

岡山市外の適応指導教室の利用経験者は多くの項目において「当てはまる」と回答した者が多かったが、項目 3、項目 4、項目 9 については、「当てはまる」と「どちらでもない」「当てはまらない」を選択した人数が同程度となった。

適応指導教室の利用経験のない者は多くの項目において「当てはまる」と回答した者が多かったが、項目 3、項目 4、項目 9 については、「当てはまる」と「どちらでもない」「当てはまらない」を選択した人数が同程度となった。

適応指導教室利用経験別での評価人数の割合

	岡山市の適応指導教室を利用			岡山市外の適応指導教室を利用			適応指導教室の利用経験なし		
	評価人数(合計19人)			評価人数(合計8人)			評価人数(合計36人)		
	①+②	③	④+⑤	①+②	③	④+⑤	①+②	③	④+⑤
1.	1.6%	6.3%	92.1%	3.8%	9.4%	86.8%	3.8%	9.4%	86.8%
2.	1.6%	6.3%	92.1%	1.9%	17.0%	81.1%	1.9%	17.0%	81.1%
3.	44.4%	28.6%	27.0%	28.3%	37.7%	34.0%	28.3%	37.7%	34.0%
4.	17.5%	33.3%	49.2%	20.8%	37.7%	41.5%	20.8%	37.7%	41.5%
5.	3.2%	12.7%	84.1%	3.8%	22.6%	73.6%	3.8%	22.6%	73.6%
6.	6.3%	30.2%	63.5%	7.5%	30.2%	62.3%	7.5%	30.2%	62.3%
7.	27.0%	42.9%	30.2%	13.2%	35.8%	50.9%	13.2%	35.8%	50.9%
8.	3.2%	12.7%	84.1%	0.0%	20.8%	79.2%	0.0%	20.8%	79.2%
9.	36.5%	33.3%	30.2%	22.6%	35.8%	41.5%	22.6%	35.8%	41.5%
10.	1.6%	20.6%	77.8%	3.8%	32.1%	64.2%	3.8%	32.1%	64.2%
11.	11.1%	27.0%	61.9%	7.5%	26.4%	66.0%	7.5%	26.4%	66.0%
12.	14.3%	27.0%	58.7%	7.5%	18.9%	73.6%	7.5%	18.9%	73.6%
13.	7.9%	9.5%	82.5%	11.3%	28.3%	60.4%	11.3%	28.3%	60.4%
14.	3.2%	9.5%	87.3%	11.3%	24.5%	64.2%	11.3%	24.5%	64.2%
15.	20.6%	31.7%	47.6%	11.3%	24.5%	64.2%	11.3%	24.5%	64.2%
16.	14.3%	23.8%	61.9%	17.0%	22.6%	60.4%	17.0%	22.6%	60.4%
17.	12.7%	25.4%	61.9%	13.2%	18.9%	67.9%	13.2%	18.9%	67.9%

項目3、項目4、項目9が全体や経験別においても、回答者の評価が分かれた項目となった。

項目3の『職員が自宅に訪問するといった訪問型の支援があること』については、不登校経験のある者では、「当てはまらない」と評価している者が多く、これは適応指導教室の利用を考える段階、あるいは回答者の現在の状態として、不登校初期と同様の状態であるとは考えにくいいため、不登校の段階による回答への影響が考えられる。不登校初期の者であれば、訪問型の支援を必要とする者は多いのではないだろうか。

項目4の『通い始めの頃は一緒に遊ぶことだけを目的としていること』については、適応指導教室に通う目的によって、意見が分かれてくる場所であると考えられる。個人それぞれの目的が、勉強や相談であるならば、遊ぶことを中心とすることに対し「当てはまる」と評価する者は少ないだろう。

逆に居場所や人との交流を目的として通うものであれば「当てはまる」という評価多くなると考えられる。

項目9の『通いにくいので「適応指導教室」という名称を変更すること』については、予備調査においても変更賛成する者、必要としない者と意見が分かれていたが、調査Ⅰの結果においても評価が分かれる形となった。

9. 適応指導教室に行かなかった理由

不登校経験がある者で、適応指導教室の利用経験のない者に対して、「適応指導教室に行かなかった理由は何ですか?」と自由記述でたずねた。結果は下記の表のようになった。これ以降の自由記述の回答については、同様の内容と判断できたものは1つにまとめ、個人が特定される可能性のある回答は一部省略して記載、或いは記載を行っていない。

利用しなかった理由

<不登校経験はあるが適応指導教室利用経験のない者>

- ・知らなかった / 存在を知らなかった / 聞いたことがないから / 情報がなかったから
- ・あまりチラシとか見ていなかった
- ・別室登校をしていた
- ・体調不良のため / 病気で寝たきりだったので、そのような余裕がなかった
- ・適応指導教室が必要なほど深刻な状態ではなかったから
- ・みんなと違う感じがして嫌だった自分だけ特別に違う感じがしてつらかった
- ・家から離れている場所がほとんどだったから
- ・学校でなくても、どこかに通いたくなかったから / 外に出ることが嫌だったから
- ・家が落ち着くから

適応指導教室について知らなかったという回答が多く、今回の調査で初めて知ったといった回答も多く見られた。適応指導教室についての広報活動の必要性や、不登校となった際の適応指導教室を紹介する基準があるのであれば、基準の再検討は必要と思われる。

10. 適応指導教室に通うのをやめた理由

適応指導教室の利用経験のある者に対して、「適応指導教室に行かなくなった理由はどうですか?」と自由記述でたずねた。結果は下記の表のようになった。

通室をやめた理由

<岡山市の適応指導教室利用経験者>

- ・もういいかなと思った
- ・中学に通い始めたから
- ・中学を卒業したから / 高校に入学したから / 高校進学したため
- ・適応指導教室の対象年齢が中学三年までだったため
- ・カウンセリングしてくれた先生がいなくなったから
- ・先生が変わり信用できなくなったから
- ・外に出たくなかった。朝起きれず起きるのが昼過ぎだった
- ・特になし / 覚えていない

<岡山市以外の適応指導教室利用者>

- ・別室に通っていたから
- ・中学に行くようになったから
- ・中学生になって学校にいけるようになったから
- ・高校に入学したから
- ・中学までしか通えなかったから
- ・行かなくなったことはあまりない

適応指導教室に通うことをやめた理由として、高校への進学、職員への信頼、職員の異動、体調による理由があげられた。中でも中学校卒業を理由に通うのをやめたといった回答が多く、一度、不登校となると中学 3 年生の終わりまで、適応指導教室を利用し続けている者が多いことが分かった。

11. 適応指導教室に通っていた理由

適応指導教室の利用経験のある物に対して、「適応指導教室に通っていた理由は何ですか？」と自由記述でたずねた。結果は下記の表のようになった。

通っていた理由

<岡山市の適応指導教室利用経験者>

- ・親に言われたから、先生に話すのが好きだったから
- ・不登校ではあったが、勉強や同年代との交流が早かったから
- ・相談できるから
- ・いじめが原因で不登校になってしまったけど、少しでも外に出れる習慣をつけるために通っていた。
- ・学校に行って普通になりたかったから
- ・勉強するため / 勉強をしたかったから
- ・少しでも勉強に困らないようにするため
- ・中学に行っていなかったから
- ・進学するために出席日数を増やすため / 出席日数を稼ぐため
- ・学校より通いやすかったから
- ・学校の出席扱いになるから
- ・学校に行きたくなかったが出席は数を稼いだかったから
- ・体調不良の日が多く、学校の教室に通うのがきつかったから
- ・中学校に行きたくても行けなかったため
- ・覚えていない
- ・親が行けと言われたから。特に理由を知らなかった

<岡山市以外の適応指導教室利用者>

- ・楽しいから
- ・不登校だったので学校へ通うようになるための練習
- ・中学に行っていない時は全く外出してなかったので少しでも外に出るきっかけがほしかったから
- ・学校に行く気がなかった
- ・学校に行けなかったから
- ・学校に行きたくても行けなかったとき行くために
- ・分からない。行くべきと言われたから

適応指導教室に通っていた理由としては、楽しいから、相談できるから、学校に通うための練習として、勉強のため、学校に行っていなかったから、学校の出席扱いになるから、学校に行きたくても行けていなかったため、親に言われたから、といった理由があげられた。

個人によって適応指導教室に通う理由が異なることが考えられる。居場所として、相談のため、学習のため、出席に数のためが主にあげられた。適応指導教室に通うことを続けるには、数種類あるこのようなニーズに対してどのように対応していくかが今後と課題となるだろう。

12. 適応指導教室に通いにくかった点

適応指導教室の利用経験のある物に対して、「適応指導教室に通いにくかった点は何ですか?」と自由記述でたずねた。結果は下記の表のようになった。

通いにくかった点

<岡山市の適応指導教室利用経験者>

- ・人が少し多かったこと
- ・同じ学校の人がいるかもしれないところ
- ・学校に復帰しようね感がすごかった
- ・中学校の前を通らないといけなかった
- ・遠かった
- ・車で通うには道が細かった

<岡山市以外の適応指導教室利用者>

- ・にぎやかな先輩が一時気多かった
- ・車でしか行けないからちょっと大変だった

通いにくかった点として、人が多かった、同じ学校の人がいるかもしれないから、学校に復帰させようとするから、自宅から遠い、車でしか通えないといったことがあげられた。

得られた回答は少なかったが、適応指導教室が通いにくくなる要因として考えられることであり、適応指導教室として改善が可能なものについては改善を検討していくことが必要だと考えられる。

13.夕方以降の開所について

回答者全体に「適応指導教室が夕方以降(15:30~19:30)に開所していれば通いたいと思いますか」とたずねた。『はい』と回答した者は30名、『いいえ』と回答した者は79名、無回答が9名であった。また、自由記述にて〈はい・いいえ〉それぞれの理由を自由記述でたずねた。結果は下記の表のようになった。

「はい」と回答した者の意見

<岡山市の適応指導教室利用経験者>

- ・通いやすいから
- ・朝早く起きるのがつらいときなどがあるから
- ・午前中具合が悪いときがあった時に通いやすいため / 午前中に動けなかったので夕方なら私は動けたから
- ・学校帰りの途中で寄れたりするから
- ・夕方以降だと知り合いに会う可能性が低くて通いやすそうだったから

<岡山市以外の適応指導教室利用者>

- ・その日あった出来事を聞いてもらえたり、悩みを相談できるから
- ・放課後相談に行けるから

<不登校経験のない者>

- ・朝早く起きなくて済むから
- ・この時間帯なら朝が早すぎず長くやっているからいつでも行けて便利である
- ・朝とか早めの時間よりは夕方以降の方が気持ちの準備が出来ると思ったから
- ・夕方も開所しているということは、夕方もいつでも行ける事だから
- ・活動的になる時間帯がその変だから
- ・夜に行って夜のムードで話したい
- ・学校の先生や身内の人には話にくいような相談をしたと思ったから。日中は一応学校にも行きたいから夕方だと嬉しいと思った
- ・午前中が学校に通うことができるように、リハビリをすることができると思ったから。適応指導教室に通いつつ調子がいいときは普通の学校に通うことができるからいいと思った。
- ・学校が終わるのがその時間帯なので帰りに寄れるという / 学校帰りでも行けるから
- ・やりたいことやべきことをできる時間が余分にあるのはいいと思う

<不登校経験はあるが適応指導教室利用経験のない者>

- ・朝より夕方の方が気持ちが楽だと思うから
- ・朝が苦手なので / 朝が弱いから
- ・夜の方が行きやすいから
- ・夜に外出て遊んでみたい / 夜だと外に出たくなるから
- ・学校に通いつつ行きたい / 家族の帰りのな
- ・他の生徒が帰った後に授業を受けられるから
- ・人通りが少し少なくなるので人目を気にするようなことが人目を気にせずに通えると思う

「いいえ」と回答した者の意見

<岡山市の適応指導教室利用経験者>

- ・時間帯が遅いから
- ・夜出かけたくない / 夜遅いのは嫌だから。外が暗いときに歩きたくない
- ・帰る時間とかぶり人と会うから
- ・生活リズム、朝起きる、通う、下校のリズムを整えながら学校復帰を促すことに反していると考えたため
- ・職員さんが大変
- ・もう通う必要がないから / 中学校の時と違って楽しく学校に行けているから

<岡山市以外の適応指導教室利用者>

- ・その時間は家にいたいから
- ・場所が少し遠いから
- ・15:30だと場合によっては学校に通っている人が下校している時間とかぶって行きにくいから
- ・学校は午前中にあるから、午後に行けば一定のリズムが崩れるから
- ・自分は通いたいと思わないが朝が弱くて学校に行きづらい人もいると思うので、そういう人のために開所してもいいのではないかと思います

<不登校経験のない者>

- ・夜は家で過ごしたいから / 家にいたい / その時間をほかの時間に回したい / 夜間はやりたいことがある
- ・風呂に入ったりが飯食べる時間がなくなるから / 時間がないから / 家の用事もあって忙しいから
- ・15:30～18:30までがいいと思います。暗くなり危ないと思ったからです / 暗くなるから
- ・暗かったりするので交通面とかが必要になるので
- ・一般の学生の帰りとは違うので、人によっては嫌だと思う。
- ・夜より朝からの方がいい / 昼とかの方がいいと思う / 普通の学校と同じ時間に行くべきだから
- ・このぐらいの時間だと行きにくくなりそうだから
- ・自分の通いたい時間に行きたい
- ・いつものようにボーっとしていることが多くなって何をしようかが混乱しそうだから
- ・学校があるから / 学校に問題なく通っているので、行く必要がないから / 私は不登校ではないからです
- ・興味ない / 別に行きたいと思わないから / そもそも不登校者ではないのであまり行く必要はない、通う必要もないと思ったから
- ・いそがしいから
- ・自分には友達がいるので大丈夫
- ・不登校でなかったため、あまりわからない

<不登校経験はあるが適応指導教室利用経験のない者>

- ・夜は暗いから外に出たくない
- ・19:30の遅い時間だと、安心して帰りにくい / 夕方以降の場合帰宅が夜遅くなるため / 時間が遅く、15時から通えないから
- ・夕方以降は疲れているので通いたいとは思わない / 夜は家で過ごしたいし、体的にもしんどいから
- ・その時間を他のことに使いたい / 家でいろいろしたいから / 夕方は家でゆっくりしたいから
- ・家庭や交通の関係上、夜中開いていないと行きづらいから
- ・親の送迎があると迷惑をかけるから
- ・他の学生と会いたくないから
- ・家から出ないし人に会いたくないし、15:30などだと逢いたくない人に会ってしまう可能性もあって、私はそれが嫌でもあったから通わないと思う
- ・夕方なので行きにくい
- ・夜が遅くなると生活リズムがよくないため / 朝行く方がスイッチが入る
- ・めんどくさい
- ・今必要がない / 必要ないから / そこまでの不登校ではないから / 今の自分に必要ないため

14.意見・感想

回答者全体に「適応指導教室にあり方について、ご意見やご感想がありましたらご記入ください」と自由記述でたずねた。結果は下記の表のようになった。

意見・感想

<岡山市の適応指導教室利用経験者>

- ・勉強をただやらせるだけではだめ、休憩もさせてほしい、合わない先生は代えられるとよかった。それが出来なかったから通わなくなった。規則だからと突っぱねずに柔軟に対応してほしい。
- ・学校への復帰を目的としないこと
- ・先生方の生徒への理解が必要であり、一人一人の違いを認めてあげることが生活の安心につながると思います。
- ・自分のことを尊重してくれることがうれしかった
- ・自分の話をきちんと聞いて理解してくれるとうれしいと思う

<岡山市以外の適応指導教室利用者>

- ・時間や日数を好きなように決めて通えるのはいい
- ・一人一人の人と向き合してほしい。ちゃんと一人の人を見てほしいと思う
- ・救われたことも多かったので本当に感謝いっぱいでした。他の子で悩んでいる子がいたら多くの温かい心で温めてあげてください。
- ・不登校の人の居場所になればいいと思います

<不登校経験のない者>

- ・不登校や問題を抱えている生徒の居場所は今後も必要だし増えてほしいとも思う。教員の皆様には頑張ってもらいたい。
- ・だれでも入れていつでも気軽に入れるようにする事
- ・事情がある人の気持ちに寄り添って親身にできればそれだけでも十分通いやすくていいと思う
- ・生まれも育ちも違う本当にたくさんの方が集まる場ゆえに一人ひとりの個人を大切にしてもらいたいと思う
- ・高校生がいける場所を作ってくれ。毎日学校に行けていても家出する日があるから居場所がほしい

<不登校経験はあるが適応指導教室利用経験のない者>

- ・学校に適応できなくて不登校になってしまったので、ここでは適応できているかと。みたいなことを思える場所になってほしいと思う。あまり無理しない、逃げる勇気も大切だと教えてもらえたから気は楽になったと思う
- ・知名度が低いと思います。
- ・生徒に対してできるだけ自由にさせるべきだと思う
- ・飲食が気軽にできたり、いつでも帰れるようにできたらいいと思います。
- ・職員とのかかわりも大事だが、年の近い友とのかかわりも必要
- ・なるべく一人一人に先生がつく形で少人数の方がいい

調査Ⅰの総合考察

調査2

結果・考察

1. 調査対象の基本情報

回答者の平均年齢は47.5歳であった。

性別は男性1名、女性23名、無回答が0名であった。

小学生時の居住地は、岡山市内に住んでいた者が10名、岡山市外に住んでいた者が13名、無回答者が1名であった。中学生時の居住地は、岡山市内に住んでいた者が11名、岡山市外に住んでいた者が12名、無回答者が1名であった。

小・中学生時の不登校経験は、経験のある者が16名、経験のない者が8名であった。

適応指導教室の利用経験は、不登校経験があると答えた16名のうち、岡山市の適応指導教室利用経験者が4名、岡山市外の適応指導教室利用経験者が1名、利用経験のない者が11名、無回答が0名であった。

	小学校	中学校
市内	10	11
市外	13	12
無回答	1	1
合計	24	24

	人数
不登校経験者	16
未経験者	8
無回答	0
合計	24

適室の利用	人数
岡山市	4
市外	1
利用なし	11
無回答	0
合計	16

2. 適応指導教室の知り方

「あなたは適応指導教室をどのように知りましたか？ 当てはまるものを選択肢から選んでください」とたずねた。回答は複数回答を可とした。回答数は105名で、無回答は13名であった。

知り方の選択人数(複数回答可)

a. 家族から聞いた	1
b. 知り合いから聞いた	4
c. 学校の教員から聞いた	4
d. 学校のスクールカウンセラーから聞いた	3
e. 学校からの配布物	8
f. インターネットで調べた	3
g. 今回の調査で初めて知った	5
h. その他	1
無回答	2

3. 適応指導教室の利用目的

「適応指導教室に通い始めの頃の目的はなんでしたか？ 利用したことがない場合は、何があれば適応指導教室に通いたいと思いますか？」と 5 件法 (①全く当てはまらない～⑤とても当てはまる) でたずねた。

調査対象全体での評価人数

	評価人数 (合計18人)				
	①	②	③	④	⑤
1. 相談、カウンセリング	0	1	3	3	11
2. 学習、勉強	0	4	5	3	6
3. 家、学校以外の居場所として	0	1	1	3	13
4. 学校の出席扱いになるから	3	1	2	2	10
5. 遊びに行く場所として	1	3	5	5	4
6. 分からない	2				
無回答	4				

不登校経験別の評価人数

	不登校経験あり					不登校経験なし				
	評価人数 (合計12人)					評価人数 (合計6人)				
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
1.	0	1	3	2	6	0	0	0	1	5
2.	0	1	5	2	4	0	3	0	1	2
3.	0	0	0	3	9	0	1	1	0	4
4.	0	1	2	1	8	3	0	0	1	2
5.	1	1	3	4	3	0	2	2	1	1
6.	0					2				
無回答	4					0				

「①+② 当てはまらない」「③ どちらでもない」「④+⑤ 当てはまる」ごとに、評価人数の割合をだした。

回答者全体では、全ての項目において「当てはまる」と回答した者が多かった。中でも項目1、項目3は、「当てはまる」と評価する者が多かった。

調査対象全体での評価人数の割合

	評価人数(合計24人)		
	①+②	③	④+⑤
1. 相談、カウンセリング	5.6%	16.7%	77.8%
2. 学習、勉強	22.2%	27.8%	50.0%
3. 家、学校以外の居場所として	5.6%	5.6%	88.9%
4. 学校の出席扱いになるから	22.2%	11.1%	66.7%
5. 遊びに行く場所として	22.2%	27.8%	50.0%

不登校の経験別で評価人数の割合を求めた。

不登校経験のある者は多くの項目において「当てはまる」と回答した者が多かったが、項目2については、「当てはまる」と「どちらでもない」を選択した人数が同程度となった。

不登校経験のない者は項目1、項目3において「当てはまる」と回答した者が多かったが、項目2、項目4、項目5については、「当てはまる」と「どちらでもない」「当てはまらない」を選択した人数が同程度となった。

不登校経験の有無ごとの評価人数の割合

	不登校経験あり			不登校経験なし		
	評価人数(合計12人)			評価人数(合計6人)		
	①+②	③	④+⑤	①+②	③	④+⑤
1.	8.3%	25.0%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%
2.	8.3%	41.7%	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%
3.	0.0%	0.0%	100.0%	16.7%	16.7%	66.7%
4.	8.3%	16.7%	75.0%	50.0%	0.0%	50.0%
5.	16.7%	25.0%	58.3%	33.3%	33.3%	33.3%

適応指導教室の利用し始めの目的について、全体ではどの項目も「当てはまる」という評価が高かったが、子供の不登校校経験の有無によって評価に違いが見られた。

不登校経験者の保護者では、項目2の『学習、勉強』についての評価が「当てはまる」「どちらでもない」が同程度となっており、保護者によって学習に対するニーズは評価が分かれるようである。

不登校経験のない者の保護者では、項目1の『相談、カウンセリング』、項目3の『家、学校以外の居場所として』についての「当てはまる」という評価が高かった。心理的な側面を支えることや居場所としての機能に対するニーズが高いことが考えられる。

結果としては上記のような形となったが、本調査での回答者は、通信制高校に通う高校生の年齢の保護者であるため、そのことが学習のニーズに対する評価に影響を与えている可能性がある。義務教育期間を終えているため学習の必要性が小学生・中学生時期よりも低くなっているのではないかと考えられる。

4.適応指導教室の活動・環境

「適応指導教室がどんなところであれば通いやすいか？」と5件法(①全く当てはまらない～⑤とても当てはまる)でたずねた。

調査対象全体での評価人数

	評価人数(合計23人)				
	①	②	③	④	⑤
1. 学校の勉強が出来る事	0	1	4	8	10
2. 学校の勉強以外の、自分の学びたいことが学べる事	0	0	2	9	12
3. 悩んでいることや心配なことなどを相談できる事	0	0	0	5	18
4. 自宅以外で過ごせる場である事	0	1	1	2	19
5. 状態や状況について受け入れてくれる人と出会える事	0	0	0	3	20
6. 同じくらいの年齢の人が通っている事	0	1	5	8	9
7. 不登校になる前の段階で、学校を離れて通ったり相談したりできる場所である事	0	0	4	7	12
8. 自分の趣味に関するものを持参できたり、興味を持っているものが置いてある事	0	1	10	7	5
9. 学校の出席扱いになる事	0	0	6	4	13
10. 自宅の近隣で通いやすい事	2	3	2	6	10
11. 保護者の送迎が必要でない事	0	1	9	8	5
12. 公共交通機関を利用して通うことが出来る事	1	1	6	5	10
無回答	1				

不登校経験別の評価人数

	不登校経験あり					不登校経験なし				
	評価人数(合計15人)					評価人数(合計8人)				
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
1.	0	1	4	4	6	0	0	0	4	4
2.	0	0	2	6	7	0	0	0	3	5
3.	0	0	0	3	12	0	0	0	2	6
4.	0	1	0	1	13	0	0	1	1	6
5.	0	0	0	2	13	0	0	0	1	7
6.	0	0	3	6	6	0	1	2	2	3
7.	0	0	2	5	8	0	0	2	2	4
8.	0	0	7	5	3	0	1	3	2	2
9.	0	0	5	2	8	0	0	1	2	5
10.	2	2	2	3	6	0	1	0	3	4
11.	0	1	6	7	1	0	0	3	1	4
12.	1	1	4	3	6	0	0	2	2	4
無回答	1					0				

「①+② 当てはまらない」「③ どちらでもない」「④+⑤ 当てはまる」ごとに、評価人数の割合をだした。

回答者全体では、多くの項目において「当てはまる」と回答した者が多かったが、項目8については、「当てはまる」と「どちらでもない」を選択した人数が同程度となった。

調査対象全体での評価人数の割合

	評価人数(合計23人)		
	①+②	③	④+⑤
1. 学校の勉強が出来る事	4.3%	17.4%	78.3%
2. 学校の勉強以外の、自分の学びたいことが学べる事	0.0%	8.7%	91.3%
3. 悩んでいることや心配なことなどを相談できる事	0.0%	0.0%	100.0%
4. 自宅以外で過ごせる場である事	4.3%	4.3%	91.3%
5. 状態や状況について受け入れてくれる人と出会える事	0.0%	0.0%	100.0%
6. 同じくらいの年齢の人が通っている事	4.3%	21.7%	73.9%
7. 不登校になる前の段階で、学校を離れて通ったり相談したりできる場所である事	0.0%	17.4%	82.6%
8. 自分の趣味に関するものを持参できたり、興味を持っているものが置いてある事	4.3%	43.5%	52.2%
9. 学校の出席扱いになる事	0.0%	26.1%	73.9%
10. 自宅の近隣で通いやすい事	21.7%	8.7%	69.6%
11. 保護者の送迎が必要でない事	4.3%	39.1%	56.5%
12. 公共交通機関を利用して通うことができる事	8.7%	26.1%	65.2%

不登校の経験別で評価人数の割合を求めた。

不登校経験のある者は多くの項目において「当てはまる」と回答した者が多かったが、項目8、項目11については、「当てはまる」と「どちらでもない」を選択した人数が同程度となった。

不登校経験のない者は多くの項目において「当てはまる」と回答した者が多かったが、項目8については、「当てはまる」と「どちらでもない」を選択した人数が同程度となった。

不登校経験の有無ごとの評価人数の割合

	不登校経験あり				不登校経験なし		
	評価人数(合計15人)				評価人数(合計8人)		
	①+②	③	④+⑤		①+②	③	④+⑤
1.	6.7%	26.7%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%	
2.	0.0%	13.3%	86.7%	0.0%	0.0%	100.0%	
3.	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
4.	6.7%	0.0%	93.3%	0.0%	12.5%	87.5%	
5.	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
6.	0.0%	20.0%	80.0%	12.5%	25.0%	62.5%	
7.	0.0%	13.3%	86.7%	0.0%	25.0%	75.0%	
8.	0.0%	46.7%	53.3%	12.5%	37.5%	50.0%	
9.	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	12.5%	87.5%	
10.	26.7%	13.3%	60.0%	12.5%	0.0%	87.5%	
11.	6.7%	40.0%	53.3%	0.0%	37.5%	62.5%	
12.	13.3%	26.7%	60.0%	0.0%	25.0%	75.0%	

項目8の『自分の趣味に関する物を持参できたり、興味がある物が置いてあること』については「当てはまる」「どちらでもない」で、回答者全体においても、不登校経験の有無によっても評価は同様であり、保護者は趣味に関する物についてのニーズは評価が分かっていた。

また、項目11の『保護者の送迎が必要でないこと』では、不登校経験者の保護者は、送迎の必要性について「当てはまる」「どちらでもない」と評価が分かっていた。

多くの項目で「当てはまる」と評価のする者が多かったが、中でも項目3、項目5はすべての回答者が「当てはまる」と答えていた。項目3は『悩んでいることや心配なことを相談できること』、項目5は『状況や状態について受け入れてくれる人と出会えること』であり、心理的な側面を支えることに対するニーズが高いと考えられる。

5.通うために必要なこと

「適応指導教室に通うために必要なことは何とご感想ですか？」と5件法(①全く必要ではない～⑤とても必要である)でたずねた。

調査対象全体での評価人数

	評価人数(合計24人)				
	①	②	③	④	⑤
1. 適応指導教室の雰囲気慣れること	0	1	1	8	13
2. 適応指導教室の職員に慣れること	0	0	1	7	15
3. 適応指導教室に通うための生活リズムに慣れること	0	1	1	7	14
4. 鉄鋼指導教室に通う方法に慣れること	0	2	2	12	7
無回答	1				

不登校経験別の評価人数

	不登校経験あり					不登校経験なし				
	評価人数(合計15人)					評価人数(合計8人)				
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
1.	0	1	1	4	9	0	0	0	4	4
2.	0	0	1	4	10	0	0	0	3	5
3.	0	1	1	5	8	0	0	0	2	6
4.	0	1	1	8	5	0	1	1	4	2
無回答	1					0				

「①+② 当てはまらない」「③ どちらでもない」「④+⑤ 当てはまる」ごとに、評価人数の割合をだした。

回答者全体では、全ての項目において「当てはまる」と回答した者が多かった。

調査対象全体での評価人数の割合

	評価人数(合計24人)		
	①+②	③	④+⑤
1. 適応指導教室の雰囲気慣れること	4.3%	4.3%	91.3%
2. 適応指導教室の職員に慣れること	0.0%	4.3%	95.7%
3. 適応指導教室に通うための生活リズムに慣れること	4.3%	4.3%	91.3%
4. 鉄鋼指導教室に通う方法に慣れること	8.7%	8.7%	82.6%

不登校の経験別で評価人数の割合を求めた。

不登校経験のある者でも、不登校経験のない者でも全ての項目において「当てはまる」と回答した者が多かった。

不登校経験の有無ごとの評価人数の割合

	不登校経験あり			不登校経験なし		
	評価人数(合計15人)			評価人数(合計8人)		
	①+②	③	④+⑤	①+②	③	④+⑤
1.	6.7%	6.7%	86.7%	0.0%	0.0%	100.0%
2.	0.0%	6.7%	93.3%	0.0%	0.0%	100.0%
3.	6.7%	6.7%	86.7%	0.0%	0.0%	100.0%
4.	6.7%	6.7%	86.7%	12.5%	12.5%	75.0%

通うために必要だと思うことを尋ねた項目であったが、どの項目も「当てはまる」と評価する者が多かった。

6.職員に望むこと

「適応指導教室の職員に望むことはどんなことですか?」と5件法(①全く必要ではない～⑤とても必要である)でたずねた。

調査対象全体での評価人数

	評価人数(合計24人)				
	①	②	③	④	⑤
1. 不登校についての専門性(症状や障害の理解、不登校についての知識や理解、対応の技術)	0	0	0	1	23
2. 子どもの趣味(PC、インターネット、ゲーム、漫画、アニメ、等)についての知識や理解	0	1	5	8	10
3. 勉強が苦手な人に教えるのが上手であることや、どのように勉強をすればいいのかを教えてくれること	0	0	3	8	13
4. 子どもの気持ちに共感や理解してくれること	0	0	0	1	23
5. 学校へ通う事だけではなく違う道(生き方)についても一緒に考えてくれること	0	0	0	7	17
6. 子どもの事を肯定してくれたり、子どもが自分で決めたことを尊重してくれること	0	0	0	4	20
7. 気軽に話せたり、相談出来ること	0	0	1	1	22
8. 適応指導教室の制度や機能についてよく理解していること	0	0	1	8	15
無回答	0				

不登校経験別の評価人数

	不登校経験あり					不登校経験なし				
	評価人数(合計16人)					評価人数(合計8人)				
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
1.	0	0	0	1	15	0	0	0	0	8
2.	0	1	4	5	6	0	0	1	3	4
3.	0	0	3	7	6	0	0	0	1	7
4.	0	0	0	1	15	0	0	0	0	8
5.	0	0	0	5	11	0	0	0	2	6
6.	0	0	0	3	13	0	0	0	1	7
7.	0	0	1	1	14	0	0	0	0	8
8.	0	0	1	6	9	0	0	0	2	6
無回答	0					0				

「①+② 当てはまらない」「③ どちらでもない」「④+⑤ 当てはまる」ごとに、評価人数の割合をだした。

回答者全体では、全ての項目において「当てはまる」と回答した者が多かった。

調査対象全体での評価人数の割合

	評価人数(合計24人)		
	①+②	③	④+⑤
1. 不登校についての専門性(症状や障害の理解、不登校についての知識や理解、対応の技術)	0.0%	0.0%	100.0%
2. 子どもの趣味(PC、インターネット、ゲーム、漫画、アニメ、等)についての知識や理解	4.2%	20.8%	75.0%
3. 勉強が苦手な人に教えるのが上手であることや、どのように勉強をすればいいのかを教えてくれること	0.0%	12.5%	87.5%
4. 子どもの気持ちに共感や理解してくれること	0.0%	0.0%	100.0%
5. 学校へ通う事だけではなく違う道(生き方)についても一緒に考えてくれること	0.0%	0.0%	100.0%
6. 子どもの事を肯定してくれたり、子どもが自分で決めたことを尊重してくれること	0.0%	0.0%	100.0%
7. 気軽に話せたり、相談出来ること	0.0%	4.2%	95.8%
8. 適応指導教室の制度や機能についてよく理解していること	0.0%	4.2%	95.8%

不登校の経験別で評価人数の割合を求めた。

不登校経験のある者でも、不登校経験のない者でも全ての項目において「当てはまる」と回答した者が多かった。

不登校経験の有無ごとの評価人数の割合

	不登校経験あり			不登校経験なし		
	評価人数(合計16人)			評価人数(合計8人)		
	①+②	③	④+⑤	①+②	③	④+⑤
1.	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
2.	6.3%	25.0%	68.8%	0.0%	12.5%	87.5%
3.	0.0%	18.8%	81.3%	0.0%	0.0%	100.0%
4.	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
5.	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
6.	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
7.	0.0%	6.3%	93.8%	0.0%	0.0%	100.0%
8.	0.0%	6.3%	93.8%	0.0%	0.0%	100.0%

通うために必要だと思うことを尋ねた項目であったが、どの項目も「当てはまる」と評価する者が多かった。

7. 適応指導教室に必要なこと

「適応指導教室が通いやすくなるためにはどんなことが必要だと思いますか?」と5件法(①全く必要ではない～⑤とても必要である)でたずねた。

調査対象全体での評価人数

	評価人数(合計24人)				
	①	②	③	④	⑤
1. 自分のやりたいことを一緒に考えてもらえること	0	0	3	8	13
2. 個別にじっくりと話を聞いてもらえたり、悩んでいることや心配なことを相談出来ること	0	0	0	8	16
3. 職員が自宅へ訪問するといった訪問型の支援があること	0	4	8	11	1
4. 通い始めの頃は一緒に遊ぶ事だけを目的としていること	0	4	7	9	4
5. 静かに読書が出来るなど、好きなことのできる時間と場所があること	0	0	1	11	12
6. 勉強することが好きになれるように教えてくれること	0	1	8	9	6
7. インターネットを用いたオンラインの支援があること	0	1	11	8	4
8. 通い始める前に、適応指導教室の制度や機能、活動内容についてしっかりと説明があること	0	0	4	9	11
9. 通いにくいので「適応指導教室」という名称を変更すること	0	6	7	4	7
10. 適応指導教室について、インターネットのホームページから詳しい情報が得られること	0	0	2	8	14
11. どんな活動をしたかと思って通室し始めるのか事前に聞き取りを行うこと	0	0	8	11	5
12. 状態によっては病院などの他の施設や機関を紹介してくれること	0	0	4	12	8
13. 通う時間帯を自由に選べること	0	0	4	7	13
14. 通う頻度を自由に選べること	0	0	2	10	12
15. パソコン等を利用した授業があること	0	2	8	9	5
16. テレビゲーム、PCゲーム、ボードゲーム、で一緒に遊べること	0	4	11	7	2
17. 職員と一緒に何か制作物を作る活動があること	0	1	7	12	4
無回答	0				

不登校経験別の評価人数

	不登校経験あり					不登校経験なし				
	評価人数(合計16人)					評価人数(合計8人)				
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
1.	0	0	3	7	6	0	0	0	1	7
2.	0	0	0	7	9	0	0	0	1	7
3.	0	4	6	5	1	0	0	2	6	0
4.	0	3	5	5	3	0	1	2	4	1
5.	0	0	1	8	7	0	0	0	3	5
6.	0	1	7	6	2	0	0	1	3	4
7.	0	1	8	4	3	0	0	3	4	1
8.	0	0	3	6	7	0	0	1	3	4
9.	0	5	2	3	6	0	1	5	1	1
10.	0	0	1	6	9	0	0	1	2	5
11.	0	0	7	8	1	0	0	1	3	4
12.	0	0	3	8	5	0	0	1	4	3
13.	0	0	4	4	8	0	0	0	3	5
14.	0	0	2	7	7	0	0	0	3	5
15.	0	2	4	6	4	0	0	4	3	1
16.	0	3	8	4	1	0	1	3	3	1
17.	0	1	5	8	2	0	0	2	4	2
無回答	0					0				

「①+② 当てはまらない」「③ どちらでもない」「④+⑤ 当てはまる」ごとに、評価人数の割合をだした。

回答者全体では、多くの項目において「当てはまる」と回答した者が多かったが、項目 3、項目 7、項目 9、項目 16 については、「当てはまる」と「どちらでもない」「当てはまらない」を選択した人数が同程度となった。

調査対象全体での評価人数の割合

	評価人数(合計24人)		
	①+②	③	④+⑤
1. 自分のやりたいことを一緒に考えてもらえること	0.0%	12.5%	87.5%
2. 個別にじっくりと話を聞いてもらえたり、悩んでいることや心配なことを相談出来ること	0.0%	0.0%	100.0%
3. 職員が自宅へ訪問するといった訪問型の支援があること	16.7%	33.3%	50.0%
4. 通い始めの頃は一緒に遊ぶ事だけを目的としていること	16.7%	29.2%	54.2%
5. 静かに読書が出来るなど、好きなことのできる時間と場所があること	0.0%	4.2%	95.8%
6. 勉強することが好きになれるように教えてくれること	4.2%	33.3%	62.5%
7. インターネットを用いたオンラインの支援があること	4.2%	45.8%	50.0%
8. 通い始める前に、適応指導教室の制度や機能、活動内容についてしっかりと説明があること	0.0%	16.7%	83.3%
9. 通いにくいので「適応指導教室」という名称を変更すること	25.0%	29.2%	45.8%
10. 適応指導教室について、インターネットのホームページから詳しい情報が得られること	0.0%	8.3%	91.7%
11. どんな活動をしたかと思って通室し始めるのか事前に聞き取りを行うこと	0.0%	33.3%	66.7%
12. 状態によっては病院などの他の施設や機関を紹介してくれること	0.0%	16.7%	83.3%
13. 通う時間帯を自由に選べること	0.0%	16.7%	83.3%
14. 通う頻度を自由に選べること	0.0%	8.3%	91.7%
15. パソコン等を利用した授業があること	8.3%	33.3%	58.3%
16. テレビゲーム、PCゲーム、ボードゲーム、で一緒に遊べること	16.7%	45.8%	37.5%
17. 職員と一緒に何か制作物を作る活動があること	4.2%	29.2%	66.7%

不登校の経験別で評価人数の割合を求めた。

不登校経験のある者は多くの項目において「当てはまる」と回答した者が多かったが、項目 3、項目 4、項目 6、項目 7、項目 11、項目 16 については、「当てはまる」と「どちらでもない」を選択した人数が同程度となった。

不登校経験のない者は多くの項目において「当てはまる」と回答した者が多かったが、項目 12、項目 15、項目 16 については、「当てはまる」と「どちらでもない」を選択した人数が同程度となった。また、項目 9 については「どちらでもない」と回答する者が多かった。

不登校経験の有無ごとの評価人数の割合

	不登校経験あり			不登校経験なし		
	評価人数(合計16人)			評価人数(合計8人)		
	①+②	③	④+⑤	①+②	③	④+⑤
1.	0.0%	18.8%	81.3%	0.0%	0.0%	100.0%
2.	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
3.	25.0%	37.5%	37.5%	0.0%	25.0%	75.0%
4.	18.8%	31.3%	50.0%	12.5%	25.0%	62.5%
5.	0.0%	6.3%	93.8%	0.0%	0.0%	100.0%
6.	6.3%	43.8%	50.0%	0.0%	12.5%	87.5%
7.	6.3%	50.0%	43.8%	0.0%	37.5%	62.5%
8.	0.0%	18.8%	81.3%	0.0%	12.5%	87.5%
9.	31.3%	12.5%	56.3%	12.5%	62.5%	25.0%
10.	0.0%	6.3%	93.8%	0.0%	12.5%	87.5%
11.	0.0%	43.8%	56.3%	0.0%	12.5%	87.5%
12.	0.0%	18.8%	81.3%	0.0%	12.5%	87.5%
13.	0.0%	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	100.0%
14.	0.0%	12.5%	87.5%	0.0%	0.0%	100.0%
15.	12.5%	25.0%	62.5%	0.0%	50.0%	50.0%
16.	18.8%	50.0%	31.3%	12.5%	37.5%	50.0%
17.	6.3%	31.3%	62.5%	0.0%	25.0%	75.0%

不登校経験によって、いくつかの項目において評価に違いがみられた。不登校経験者の保護者では、適応指導教室に必要なことの評価が回答者の中でも分かれるようである。

項目 9 の『通にくいので「適応指導教室」という名称を変更すること』について、不登校経験者の保護者では、「当てはまる」と回答する者が多かったが、不登校経験のない者の保護者では、「どちらでもない」と評価する者が多かった。不登校経験の有無による評価の違いがみられ、実際に不登校を経験している保護者では半数以上の者が変更するべきだと評価している。

8. 適応指導教室に行かなかった理由

不登校経験がある者で、適応指導教室の利用経験のない者に対して、「適応指導教室に行かなかった理由は何ですか?」と自由記述でたずねた。結果は下記の表のようになった。これ以降の自由記述の回答については、同様の内容と判断できたものは1つにまとめ、個人が特定される可能性のある回答は一部省略して記載、或いは記載を行っていない。

利用しなかった理由

<不登校経験はあるが適応指導教室利用経験のない者>

- ・保健室登校をしつつ教室に戻れる方法を考えたかったから
- ・行かない方がよい(必要ない)と先生に言われた
- ・学校に関係する物事を拒絶していたため
- ・精神的に落ち着かず外に目が向けられない状態のため
- ・学校のいじめや先生方の対応から本人が学校に関する物事を拒否していたのでどうしようもなかった。

利用しなかった理由として、保健室登校を行っていたことや、周囲から適応指導教室を紹介されなかった、不登校となっている本人の状態による理由などがあげられた。

9. 適応指導教室に通うのをやめた理由

適応指導教室の利用経験のある者に対して、「適応指導教室に行かなくなった理由はどうですか?」と自由記述でたずねた。結果は下記の表のようになった。

適応指導教室の通室をやめた理由

<岡山市の適応指導教室利用経験者>

- ・中学を卒業したから
- ・本人がもう行かなくていいといったので
- ・本人に合っていなかった。気の合う友達ができなかったため
- ・集団でしたが気の強い子がいて、話し合いやその他でも自分の意見を押し通すので子供が疲れて

適応指導教室に通うことをやめた理由として、中学校の卒業、不登校となっている本人の希望、適応指導教室の環境があげられた。

10. 適応指導教室に通っていた理由

適応指導教室今日の利用経験のある物に対して、「適応指導教室に通っていた理由は何ですか?」と自由記述でたずねた。結果は下記の表のようになった。

通っていた理由

<岡山市の適応指導教室利用経験者>

- ・体を動かしたり、皆で電車に乗って出かけたりする経験をする
- ・人とコミュニケーションを持ち、人との距離感を体験する。
- ・家から出て規則正しい生活をおくる
- ・出席日数になる
- ・親の教育相談。この相談
- ・何度か見学に行き本人が学校より少人数で楽しそうな適応指導教室に行きたいと希望
- ・登校扱いになるため
- ・少しでも外に出てほしいと思っていた親の気持ちと合った

適応指導教室に通っていた理由として、適応指導室での活動用、居場所としての機能、出席日数、相談、生活リズムの改善としてがあげられた。

11. 適応指導教室に通いにくかった点

適応指導教室今日の利用経験のある物に対して、「適応指導教室に通いにくかった点は何ですか?」と自由記述でたずねた。結果は下記の表のようになった。

通いにくかった点

<岡山市の適応指導教室利用経験者>

- ・一人昔気質な先生がいて、その先生の時は子供が先生に気を使い歩み寄らないといけなかった
- ・本人が意味を見出せなかった
- ・自力通学する気力がなく送迎が必要だった

適応指導教室に通いにくかった点として、職員、通う意味を見出せなかったこと、送迎についてが上げられた。

12.夕方以降の開所について

回答者全体に「適応指導教室が夕方以降(15:30~19:30)に開所していれば通いたいと思いますか」とたずねた。『はい』と回答した者は14名、『いいえ』と回答した者は6名、無回答が4名であった。また、自由記述にて〈はい・いいえ〉それぞれの理由をたずねた。結果は下記の表のようになった。

「はい」と回答した者の意見

<岡山市の適応指導教室利用経験者>

- ・保護者の送迎が必要なら夕方の方が通しやすい。
- ・昼夜逆転になっている方が多く、夕方から元気になるのでもいいと思います。

<岡山市以外の適応指導教室利用者>

- ・他の生徒と違う時間に通えるから

<不登校経験のない者>

- ・本人の通いやすい時間や保護者の仕事の都合など配慮してもらえると送迎の幅が広がる
- ・中学生ぐらいになると起立性障害で午前中体調が悪くて不登校になる人もいるのであるとよいかと。午前中は登校しなくてはというプレッシャーが強い子にとって通うのが難しいこともあると思うので、この時間だと行きやすくなるのではないかと思う。時間帯の選択がある方が学校に戻りやすいかなとも思う。
- ・仕事の後で対処できる

<不登校経験はあるが適応指導教室利用経験のない者>

- ・起立性調節障害が不登校の原因だったため、朝が不調で夕方からよくなるので夕方に開所していれば通いやすかったと思う
- 自分ではなかなか一人で通うことが難しいかもしれないので、この時間帯ならば送迎ができるから
- ・娘が学校を休んで家にひとりでいた頃、よく昼夜逆転していました。私が仕事から帰ると起きてきて「カフェに行きたい」といってよく出かけました。そういった状態の子供ならばこの時間帯はあっているのかもしれませんが。逆にそういった状態の子供が適応指導教室に通うのかはわかりませんが。
- ・不登校経験者の多くは昼夜逆転生活をしていたりします。自分の子供がそうでした。夕方～夜間にかけて短時間でも過ごせれば親としても仕事の都合をつけやすく一緒に通ったり話に行けてコミュニケーションや他者との関わり合いが増えてよいと思います。
- ・リラックスできる場所が欲しい
- ・朝起きていることが少なかったなので、もしあればよかったのかなと思いました。

「いいえ」と回答した者の意見

<岡山市の適応指導教室利用経験者>

- ・同級生に会いたくないので下校時以降は外に出ないので。

<不登校経験のない者>

- ・夕方以降の生活リズムが出来上がっており問題なく過ごせている。家庭が一人で静かに過ごせクールダウンする場になっているため、登下校、学校に加え新たに多数の人と過ごす場は負担になると思うので、今は通わせる必要があると思わない。
- ・現状に満足しているため

<不登校経験はあるが適応指導教室利用経験のない者>

- ・通常の生活に戻れるようにと考えるので
- ・不登校になった場合、通常学校へ行っている時間帯を過ごせれば十分であると思うので。

13.意見・感想

回答者全体に「適応指導教室にあり方について、ご意見やご感想がありましたらご記入ください」と自由記述でたずねた。結果は下記の表のようになった。

<岡山市の適応指導教室利用経験者>

- ・「お母さんがあれだからちょっと…」みたいなことを言われて、子供に振り回されながらも子供のために押したり引いたりしていたが自信を無くした時期があった。
- ・学校への復帰を目標にしていなくて、一對一の斉授業スタイルではなく、全ての子が選べる選択肢としての場であつたらいいと思います。
- ・とても助かった。学校に行きづらいのに適応指導教室に行くのはなぜかと聞くと、「よく頑張ってきたね」と褒めてくれるからと。出来たらもう少し長い時間(一日2時間では少ない)いられたらよかったなあと思います。
- ・本人の意向を常に組みながら、適応指導教室の先生と本校の先生、保護者が連携して、本人の後悔が最小限になるよう努めていただきたいです。本人の得意なものを伸ばしていける場であってほしい。

<不登校経験のない者>

- ・学校に通うことが全てではないことを親も子供も感じられる支援をしていただきたいです。
- ・小・中だけでなく、高校生まで支援は必要だと思えます。将来の引きこもり対策として。

<不登校経験はあるが適応指導教室利用経験のない者>

- ・市ではなく県全体の学校との連携や夕方開所など多様化が求められる
- ・その子によると思いますが、うちの場合は適応指導教室には適さない(嫌がるだろう)と思い、通わせませんでした。①勉強のできない子が多いイメージ、②勉強せずに(人によると思いますが)楽に逃げているイメージがあり、高校に行けなくなったら困ると考えた。今考えると適応指導教室についてホームページとかもっと詳しく知ることができたら、例えば入学前にその知識があればもっと余裕を持って対処できたかとも思います。
- ・学校を出席扱いと聞いて本人は拒否しました。様々なタイプの子供たちが集まっているとは思いますが対応例・相談例が分かると親の勉強のためだけでも指導があると近づけられたのかとも思います。
- ・子供の変化に気づいたら、様々な不安のキーワードから検索しても相談窓口にたどり着けると、親としては安心できます。ネット上に相談例と対応してきた実績が載っていると子供が不登校になったときの親としての対応が勉強できて嬉しいです。
- ・必ず子供の目線にまで下りて話を聞く姿勢を職員の方全員が持っていてあげてください。個人の大人が信じられるかどうか大切ですがそこに携わる方の仲がよくない、事務的だとすぐ敏感な子供は見抜いてしまい、所詮、大人ってこんなものだと思ってしまいます。態度と行動で示してあげてください。
- ・高校生でも何でも話せる相談できる方が必要です。とにかく助けてください。

調査 2 の総合考察

まとめ

全体を通じた考察

ここでは、予備調査と本調査の結果からわかったことをまとめ、そこから考察したことを記載する。

まず、不登校児童生徒のことを生徒と称する。

次に、この調査の目的は「適応指導教室に通いやすく、通いたくする」ためであり、小中学生段階の不登校児童生徒およびその保護者を対象としている。

そのためこの考察では、不登校経験があると回答した生徒と、子どもの不登校経験があると回答した保護者のデータについて記載している。

なお、不登校の状態を初期・中期・後期の3段階について記載している。詳細については、3ページを参照していただきたい。(参考文献 1、2、3)

(1) 予備調査の結果について

予備調査の結果から、不登校状態の間の外出先としては、生徒自信の趣味に関する事であれば自発的に外出や活動への参加を行っている傾向があった。保護者(母親)とともに行動する者が多いようである。心理的・精神的な症状(対人恐怖、等)があったと語る場合は、自家用車で外出をすると回答する傾向があった。

また、不登校の間に生徒自身が受けていた支援は、カウンセリング、居場所、学習の3つに分類される傾向があった。

(2) 本調査について

質問4「適応指導教室の利用目的」についてわかったこと。

この質問の回答では、

- ・学校の出席扱いになること
- ・学習、勉強

の2項目を当てはまると回答した人の割合が他の項目に比べて高かった。

また、その次に

- ・相談、カウンセリング
- ・居場所(安心して落ち着ける、コミュニケーションをとる、学校以外で通える)

の2項目については、半数以上の人当てはまると回答した。

つまり、適応指導教室は、出席、学習、居場所、相談の4つを利用目的とされているとわかった。

質問4についての考察

出席、学習、居場所の3つは学校の機能の大きな部分を占めるものであることから、学校の代替機関として目的を持つ傾向があるとわかる。また、相談・カウンセリングの目的もあることから、適応指導教室を不登校向けの学校の代替機関であることもわかる。

また、予備調査段階では、不登校の間であっても外出できる行先は本人自身の趣味に関する場

所だと回答する傾向があったが、質問 4 では遊びに行く先としての利用を適応指導教室の目的とする回答は他の項目に比べて少なかった。

質問 7「職員に望むこと」についてわかること

この質問ので、80%を超える人が当てはまると回答した項目は以下のものだった。

- ・不登校や障害への知識や理解
- ・苦手な人への学習指導
- ・気持ちへの共感、肯定
- ・気軽さのある対応や話し方

これらの項目が適応指導教室の職員に求められていることがわかった。

つまり、適応指導教室では、不登校向けの知識、学習、気軽な対応などの、不登校向けの技術や対応力が職員に求められていることがわかる。

なおこの質問は、「適応指導教室の職員に望むこと」であり、「より対応してほしいもの」や「不満があったもの」という回答ではないことを留意してほしい。つまり、この回答からわかることは「不登校の子が適応指導教室に通うにあたり、職員に期待しているのはこの項目だ」ということである。

質問 9「通室をやめた理由」や、質問 11「通いにくかった点」の回答からわかること。

この二つの質問の回答では、

- ・適応指導教室の職員への不信や人事異動
- ・雰囲気合わなさ(人の多さ、にぎやかさ)
- ・適応指導教室に知人がいるかもしれない不安
- ・登校刺激の多さ
- ・通いづらさ(距離・送迎が必要)
- ・生活リズムの乱れ

の項目の部分が、適応指導教室から離れる理由や通いにくくなっている理由となっていることがわかった。

質問 7、9、11 についての考察

質問 9、11 で、上記の項目が当てはまるということは、初期段階の不登校状態であるところの、人間関係の不安さや不登校についての罪悪感や受容度の低さ、心理的安定度の低さが、適応指導教室から離れる理由や通いにくくなっている理由の背景にはあるとわかる。だから、その心理的な不安定さの結果、職員や知り合いについての不安や学校に登校することへの不安や生活リズムの乱れとして、表れている。(参考文献 1、4)

また、質問 7 の回答でも、共感や肯定、気軽さが職員に臨まれている。これらの項目は不安定な生徒に対する低刺激の対応の基本であり、それは不登校初期段階の生徒のための対応である。(参

参考文献 1、2、4)

まとめると、これらの回答の傾向から、不登校になって心理的に安定するまでの間の困難さにより適応指導教室に通えなくなっていることがわかる。つまり、不登校初期段階の生徒が、適応指導教室に通い始め、不登校初期段階の困難さによって、適応指導教室から離れたり通いにくくなったりしている事がわかった。

その一方で、不登校中期以降の困難さが質問 9、11 の自由記述形式であるにも関わらず回答されていない事も注目すべき点である。不登校中期以降の困難さの一例としては、適応指導教室内の人間関係トラブル(友だちになったから発生するケンカ等)や、勉強の困難さ(学習したいが宿題ができない等)があるが、その項目が出てこなかった。適応指導教室に、中期以降の困難さがあまり無いことがわかる。

質問 9「通っていた理由」の回答からわかること

一方で、この質問の回答の内、積極的な理由としては、以下の項目を当てはまると回答した人が多かった。

- ①楽しさ
- ②話すこと、交流、相談
- ③再登校や外出等の社会復帰のため
- ④勉強のため
- ⑤高校進学のための出席扱いのため

質問 9 についての考察

この項目を分類すると、①は不登校中期の支援内容であり、②～⑤は不登校後期の支援であることがわかる。

適応指導教室では、実際に通う理由につながっていることから、主に不登校後期の支援が充実して機能していることがわかる。(参考文献 1、3、4)

(3) 予備調査と本調査を通じての考察

適応指導教室では、不登校初期段階の支援よりも、不登校後期段階の支援が充実している、ということがわかった。それは、適応指導教室に通いにくくなる理由が初期段階の不登校生徒への支援内容と一致し、適応指導教室へ通っていた理由が主に後期段階の不登校生徒への支援内容と一致する、という2点から明らかである。

つまり、適応指導教室は、不登校支援における初期段階よりも後期段階の生徒の支援が充実しているのである。そもそも設立当初から適応指導教室の目的は学校復帰を目指す事であった。そのため、不登校から学校へ復帰する不登校後期の支援が得意なのは目的に沿っており、自然な流れであると言える。

また前提として、適応指導教室に通室する前の段階で個別相談を行っており、その個別相談の段階で不登校初期の対応をしている。したがって、その個別相談の段階を終え、不登校中期以降になっているはずの生徒が通う適応指導教室に、不登校初期段階の支援は想定されていないのは当然であると言える。

今後の適応指導教室の課題としては、初期段階の対応について模索する事となる。その中でも、民間の団体との連携により得意な支援を相互に補完する方策が、不登校生徒の負担が少なく、通いやすく、通いたい適応指導教室の支援体制の構築には近道であると考えられる。岡山市における民間団体は、適応指導教室の得意とする後期の支援（学習指導や学校との連携）が得意ではない団体もある一方で、個別訪問やカウンセリングを行っており、初期段階の対応が得意な団体もある。連携するための一定の共通認識が必要となる可能性はあるが、適応指導教室と民間団体が連携をすることで、初期段階の対応についての仕組みを模索し、連携することで、不登校生徒の負担が少なく、通いやすく、通いたい適応指導教室にすることができる。

これは『義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する基本指針』（文部科学省、平成29年3月31日）の中でも『不登校児童生徒の多様な状況に応じたきめ細かい支援を行う等の観点から、地域の実情に応じ、教育委員会・学校と多様な教育機会を提供している民間の団体とが連携し、相互に協力・補完し合いながら不登校児童生徒に対する支援を行う取組を推進する。』とあることにも沿う。

また、今回の調査では回答した者が、主に通信制高校とそのサポート校に調査現在で定期的に通うことができている生徒とその保護者であることに留意したい。小中学校時代に不登校だった者の内、ニート状態やひきこもり状態にある者は、この調査に回答をしていない。そのため、精神疾患による医療的困難さや経済困窮等の福祉的困難さにより長期欠席していた者や、不登校や発達障害を含み複数の原因で長期欠席していた者など、年単位での支援が必要な者、つまり社会復

帰・社会的自立だけが支援の目標ではない者の意見がこの調査には反映されていない。さらに、教育現場では、LGBT（セクシャルマイノリティ）や HSP・HSC（非常に敏感な人・子ども）などの原因を有する不登校も現れている。これらの者の意見についても含まれていない。

したがってこの調査が適応指導教室の全ての生徒の意見を表しているわけではなく、今回調査できる生徒の範囲内での意見からを表したものであることを考慮した上でこの調査結果をご活用いただければ幸いである。（参考文献 1、5、6）

参考文献

- 1:『〈タイプ別・段階別〉続 上手な登校刺激の与え方』小澤美代子著、本の森出版、2006年
- 2:『学校の先生・SC にも知ってほしい:不登校の子どもに何が必要か（子どものこころと体シリーズ）』増田健太郎編著、慶應義塾大学出版会、2016年
- 3:『不登校(登校拒否)の教育・心理的理解と支援』佐藤修策著、北大路書房、2005年
- 4:『事例に学ぶ不登校の子への援助の実際』小林正幸著、金子書房、2004年
- 5:『児童生徒理解・支援シート(参考様式)』文部科学省初等中等教育局ホームページより（2020年2月7日参照）
- 6:『LGBTQ+の児童・生徒・学生への支援』葛西真記子編著、誠信書房、2019年

(東條先生のコメント)

謝辞

この調査にご回答いただきました、高校生の皆さま、保護者の皆さま、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。質問紙の配布にご協力いただきました、KTC おおぞら高等学院岡山キャンパス様、第一高等学院高等学校岡山キャンパス様、クラーク記念国際高等学校岡山キャンパス様、岡山高等学院様、NPO 法人あかね様、ありがとうございました。

また、調査の手法や方向性についてご助言いただいた岡山大学大学院社会文化科学研究科の東條光彦教授、ニーズ調査事業をお受けくださった岡山市教育委員会事務局学校教育部指導課様、コーディネートしてくださった ESD・市民協働推進センターの高平様、皆さまのお手配とお心配り誠にありがとうございました。最後に、調査の膨大な量の情報をまとめ、時間をかけて尽力してくれたこの調査の担当の坂元優太さん、お疲れ様でした。今後の適応指導教室と不登校の児童生徒のために、手間と時間を割いてくれて、ありがとう。

この調査は皆さまのおかげで完成することができました。感謝をしてもし尽せませんが、お礼に代えさせていただきます。